

扱規程第十一條ニ依リ金庫へ拂込ムヘシ(全上)

○勅令第八十九號 二十二年七月二日

仕拂命令委任規程

第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十一條ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條 委任ヲ受タル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

○大藏省訓令第四十號 二十六年十一月二十五日

大藏省所管經費仕拂命令官

仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令及集合仕拂請求書發付等ニ關スル取扱手續左之通相定メ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

第一條 仕拂命令官仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ成ルヘク其交付ヲ爲サントスル日ノ前日ニ其案内仕拂命令又ハ案内

仕拂請求書ヲ金庫ニ送付スヘシ但臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第二條 仕拂命令官集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ本訓令附屬第一號書式ノ通知書ヲ各受取人ニ交付シ受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨裏書ヲ爲シ之ト引換ニ現金ヲ金庫ヨリ受取ラシムヘシ

第三條 仕拂命令官金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令又ハ仕拂請求書及集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ通知書ヲ各受取人ニ送付シ現金領收ノ際受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨裏書ヲ爲シ之ヲ金庫ニ差出サシムヘシ但在外國受取人ヘノ送金及電信爲替ニ依リ送金スル場合ニハ本條ノ通知書ヲ送付スルニ及ハス

第四條 仕拂命令官仕拂命令仕拂請求書ヲ債主ニ交付シ若クハ集合仕拂命令集合仕拂請求書又ハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ各其領收證書ヲ徵スヘシ

前項ノ領收證書ハ金庫ヨリ會計検査院へ提出ノ爲メ仕拂命令官へ送付ス

ルヘキ第二條第三條ノ現金交付濟通知書及第三條但書ノ場合ニ於テ受取人ヨリ徴シタル領收証書ト共ニ會計規則第五十二條第三項ノ計算書ニ添付シ提出スヘシ(二十七年七月訓令第四十號ヲ以テ本項改正)

第五條 仕拂命令官仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書ヲ發行シタル後科目ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ本訓令附屬第二號書式ノ科目訂正書ヲ當該金庫ニ送付スヘシ

第六條 毎月ノ計算整理ノ爲メ仕拂命令又ハ仕拂請求書及集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ受取人ニ交付シ又ハ金庫ニ送付スルハ毎月二十八日(二月十二月ハ二十六日)限リトス但法規上仕拂期日ノ定マレルモノ及臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第七條 仕拂命令官ハ毎月二十八日(二月十二月ハ二十六日)ニ於テ其月中ニ金庫ヘ送付シタル案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニ對スル仕拂命令又ハ仕拂請求書ニシテ事故アリテ同日迄ニ受取人ニ交付スルコト至ラザリシモノアルトキハ之ヲ調査シ即日其ノ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ノ返付ヲ金庫

ニ請求スヘシ但其廿八日(二月十二月ハ二十六日)以後ノ送付ニ係ルモノニシテ其月中ニ交付スルニ至ラサルモノアルトキハ末日ニ於テ本文ノ手續ヲナスヘシ

第八條 仕拂命令官金庫出納事務規程作業及鐵道會計金庫出納事務規程ニ據リ金庫ヨリ歳出金月計對照表歳出仕拂未濟繰越金支出月計對照表ニ証憑書類ヲ添ヘ送付ヲ受ケタルトキハ其仕拂命令受領濟額並ニ仕拂請求書受領濟額ハ仕拂命令仕拂請求書發行額ニ其現金仕拂額ハ証憑書類ニ對照シ相違アルトキハ速ニ其事由ヲ付シテ之ヲ返付シ相違ナキトキハ「書面ノ金額調査候處相違無之ニ付證明シ証書何枚及返却候也」ト記入署名捺印シ證憑書類ト共ニ三日以内ニ之ヲ金庫ニ返付スヘシ(廿一年四月訓令第二十號ヲ以テ本項中削除)明治二十三年法律第十一號第十條ニ據リ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シタル仕拂切符並ニ同年當省訓令第二十七號第二條第二項ニ據リ中央金庫及本支金庫ニ於テ引繼ヲ受ケタル雜部金ニ對シ金庫ニ於テ現金仕拂ヲ爲シタル分ニ係ル月計對照表ノ送付ヲ金庫ヨリ受ケタルトキハ前項ニ準シ取扱フヘシ

前各項ニ據リ証明ヲ爲シタル後該證明ニ就キ誤謬ヲ發見シタルトキハ其理由ノ證明書ヲ作り之ヲ金庫ニ交付スヘシ
第九條 仕拂命令官ハ照較ノ用ニ供セシムル爲メ其印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ

第一號書式 「備考」

（「内及印章ハ孰モ朱」）

用紙適宜

縦四寸五分 「証券印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ仕拂命令官ニ於テ其旨ヲ通知書ニ記入スヘシ」
横三寸三分

取扱廳	番	號	現金仕	何地金庫	受取人
大藏省主管			金庫		
「某」年度	「仕拂命令	（仕拂請求書）	又ハ集合仕拂命令	（集合仕拂請求書）	第「何」號
金額氏名表	第何號	（金額氏名表第何號）	（額金）		
氏名表云云ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令令集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル					
一金	何程也				
右金額ニ對スル	「仕拂命令	（仕拂請求書）	「本日	前記金	
入シ記					
受取ノ	際裏面				
ニ年月					
日ヲ記					

通	知	書	面
庫ヘ交付候條該金庫ヨリ現金ヲ受取ルヘシ	明治「何」年「何」月「何」日	「何」應仕拂命令官	「何」官 氏 名「印」
「何」 某「殿			
表面ノ金額領收候也			
受取人	明治「何」年「何」月「何」日	「何」 某「印	
「何地金庫宛」			
名捺印	シテ之	ヲ金庫	ニ交付
スヘシ			

第何號	歲出科目訂正書
一金何程	何年度歲出經常部(臨時部)何廳所管
	何々(款) 何々(項)
	「此訂正科目」
	「何々(款) 何々(項)」
	右何年何月何日發行第何號仕拂命令 <small>(仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書)</small> 何ノ誰渡ノ分科目朱書ノ通訂正ヲ要ス
何年何月何日	何廳仕拂命令官々氏名印
何地金庫宛	

○大藏省令第十八號 二十三年七月二十六日
 仕拂命令仕拂請求書又ハ仕拂命令官ヨリ交付シタル通知書「會計主務官ヨリ交付シタル領收證書」出納官吏ヨリ交付シタル引出切符二十三年一月一日以後ニ發シタル仕拂切符ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタル時ノ取扱方左ノ通相定ム(二十六年十一月省令第二十九號ヲ以テ本文中追加)

第一條 仕拂命令、仕拂請求書又ハ通知書領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)仕拂切符、引出切符ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタル時ハ記名者ヨリ其旨ヲ署名捺印シタル書面ヲ以テ仕拂命令、仕拂請求書、通知書領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)仕拂切符、引出切符ニ指定シタル金庫ニ届出可シ(全)届書ニハ其種類ニ從ヒ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一 仕拂命令、仕拂請求書ナルトキハ金額、番號、年度、科目、振出日付、仕拂命令官「會計主務官氏名」仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名住所

二 通知書ナルトキハ金額、番號、(仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號トモ)年度、仕拂フヘキ金庫

名、通知書ヲ交付シタル官廳並ニ仕拂命令官々氏名、受取人氏名住所(二十六年十一月省令第二十九號ヲ以テ本號追加シ以下順次繰下ク)

三 領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)ナル時ハ金額、番號(仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號共)年度、

仕拂フヘキ金庫名、用紙ヲ交付シタル官廳名、受取人氏名住所

四 仕拂切符ナルトキハ金額、番號、年度、科目、振出ノ日付「會計主務官」出納官吏氏名、仕拂フヘキ金庫名受取人氏名住所(二十六年十一月省令第二十九號ヲ以テ本號中追加)

五 引出切符ナル時ハ番號、金額振出日付、出納官吏ノ氏名仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名

届書ニ押捺スル印章ハ前ニ仕拂命令官又ハ「會計主務官」ニ差出シタル請求書又ハ受取證書ニ押捺シタル印章ト同一ナル印章ヲ用ユヘシ

第二條 金庫ニ於テ前條ノ届書ヲ受ケタル時既ニ仕拂濟ナルトキハ其旨ヲ届出人ニ告ケテ届書ヲ返付スヘシ

仕拂以前ナル時ハ案内仕拂請求書仕拂命令、仕拂請求書又ハ氏名表若クハ案内書案内引出切符ニ仕拂故障アル旨ヲ付箋シ届書ハ仕拂命令官又ハ

出納官吏ニ送付スヘシ(二十六年十一月省令第二十九號ヲ以テ本項中改正)但届出人ニ對シテハ届書ノ受取證書ヲ渡スヘシ

第三條 仕拂命令官又ハ出納官吏金庫ヨリ届書ノ送付ヲ得タルトキハ之ヲ調査シ正當ナリト認ムルニ於テハ其旨ヲ届書ニ記入シ署名捺印シ金庫ニ

還付スヘシ(全上ヲ以テ本條中改正)

第四條 金庫ニ於テ仕拂命令官又ハ出納官吏ヨリ届出ノ返付ヲ受クルトキハ債主ニ通知シテ仕拂ヲナスヘシ(全上)

○大藏省訓令第十七號 三十一年三月十七日
明治二十八年三月 大藏省訓令第九號内國稅徵收費配賦並取扱順序左ノ通り改正
正シ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
内國稅徵收費取扱順序

第一條 經費ノ配賦ハ之ヲ分チテ左ノ三類トス

第一類費

- 一 奏任俸給
 - 二 判任俸給
 - 三 廳費
 - 四 内國旅費
 - 五 雇員給
 - 六 傭人料
 - 七 被服費
 - 八 雜費
 - 九 沖繩縣稅品取扱費
- 第二類費
- 一 各所修繕
 - 二 滯納處分費

第三類費

- 一 退官賜金
- 二 死亡賜金
- 三 所得稅調查費
- 四 市町村交付金
- 五 印紙買戻金
- 六 訴訟費
- 七 賠償金

第二條 第一類費ハ豫算定額ヲ以テ之ヲ配賦ス

第三條 第二類費ハ所要ノ見込年額明細書及金庫月別仕譯書ヲ製シ四月十日以内ニ請求スヘシ

第四條 第三類費ハ支出ヲ要スル都度精算金額明細書ヲ製シ之ヲ請求スヘシ

但第三中ノ臨時取調掛手當及雜費ハ其所要見込金額ヲ以テ請求スルコトヲ得

第五條 仕拂豫算各項中目(第一類費第一)ノ金額彼此流用ヲ要スルトキハ該仕拂命令官限り之ヲ爲スコトヲ得

但本文ノ流用ヲ爲シタルトキハ該年度中之ヲ取纏メ別記書式ニ依リ翌年度四月十日以内ニ之ヲ報告スヘシ

第六條 特ニ用途ヲ指定シ配賦シタル金額ハ經伺ノ後ニアラサレハ他ニ流用又ハ轉用スルコトヲ得ス

但流用又ハ轉用ヲ請フハ該年度一月三十一日限リトス

第七條 第二類費中豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ金額ノ仕拂豫算ニ不足ヲ生シタルトキハ其所要ノ精算金額明細書ヲ製シ増額ヲ請フヘシ但明細書ニハ所要ノ金額、事由、現豫算額、仕拂命令濟額、仕拂命令未濟額ヲ記載

スヘシ

第八條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ要スルトキハ其都度事實ヲ詳具シ伺出ヘシ

第九條 各目又ハ特ニ用途ヲ指定シ配賦シタル金額精算上剩餘ヲ生シ又ハ生スヘキ見込アルトキハ該年度一月三十一日迄ニ其金額ヲ報告スヘシ

(別記)

何年度内國稅徵收費豫算各目流用報告書

(△印ハ朱書)

科目	豫算額	流用増△減		事由	現豫算額	仕拂命令濟額	仕拂命令未濟額
		目	金額				
應費	二〇〇〇〇	△一五〇〇〇	一五〇〇〇	/	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	〇
備品費	五〇〇〇	△五〇〇〇	五〇〇〇	不用トナルヘキ事由記載ヲ要ス	四五〇〇〇	四五〇〇〇	〇
運搬費	△一〇〇〇	△一〇〇〇	一〇〇〇	△同斷	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	〇
消耗品	七〇〇〇	△一〇〇〇	一〇〇〇	△同斷	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	〇

費	通信運搬	八〇〇〇	備品費	五〇〇	所要ノ事由記載	九〇〇〇	九五〇〇	〇
	消耗品	一〇〇〇	同斷					
(項)	(目)							
(項)	(目)							
(目)								
合計								

右報告候也
年 月 日

大藏大臣宛

稅務管理局長官姓名印

○大藏省訓令第八號 二十八年三月十六日

明治二十六年三月大藏省訓令第六號內國稅徵收費科目左ノ通改正シ明治二十八年度ヨリ施行ス(以後科目ノ加除ハ記入セリ)

內國稅徵收費科目

款	項	目	節	解	疏
內國稅徵收費	俸給及諸給	奏任俸給	局長	司稅官	

○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給
○大藏省臨時費	二十八	備用品費	賞與	死亡賜金	退官賜金	技術	稅務屬	判任俸給

圖書及印刷類	圖書購買書籍、繪圖、達書、規則書、官報類	雜品	網糸、金物、春繩、筵、帶、塵取、雜巾、門札、室札、風呂敷、草履、下駄、靴拭、砥石等類	雜器械	寫字、印刷、製圖器械類	酒類試驗器械類	ホクトノートル、酒類酸味、試驗器械類	丈量器械	丈量繩、間竿、標旗等	刷毛、雨具、點火器、製本道具等類	立各種印章、活字、版木、度量衡、臥具、鋸、鉋、斧、鉞、水瓶、鍋、釜、土瓶、茶碗、茶盆、炭取、火箸、柄杓、裁臺、裁刀、打盤、糊板、類
--------	----------------------	----	--	-----	-------------	---------	--------------------	------	------------	------------------	---

製本費	職工備賃ハ此節ニ編入セス
印刷費	達書、規則書、報告書、書籍、圖書等ノ刷成シタルモノ又ハ印刷代
筆紙墨文具	
用紙	美濃紙、半紙、烏ノ子紙、奉書、厚紙、西洋紙、計算書用紙、諸帳簿用紙、檢票用紙、報告書用紙、切符、一切ノ封袋等ノ類、反古紙漉直シ代共
諸帳簿	收入簿、支出簿等簿冊ト成タルモノ但書籍ハ此節ニ編入セス
筆墨印肉類	毛筆、鐵筆、鉛筆、石筆、墨、朱墨、墨汁、繪ノ具、白墨、印肉、ペンシス等ノ類
硯小道具類	硯石、硯箱、墨壺、墨汁入、渾發、烏口、定木、石盤、算盤、水入、糊入、

消耗品	肉池、繪ノ具皿、インキ壺臺、筆架、文鎮、小刀、錐、留針、燒燉、綴金、消ゴム等ノ類
薪炭油類	各種ノ薪木、石炭、木炭、石油、種油、器械用油、塗油、漆、ペンキ等ノ類薪割賃共
雜用品	樟腦、石炭酸、硫酸、燭燭、生麩、封蠟、膠、付木、火繩、燈心等ノ類
通信運搬費	
郵便電信料	電信持込賃共
電話器使用料	
運搬費	物品運送ニ用ル荷札、挾板、柳行李、細引繩、筵、箱、填物等ノ類荷

○會計檢査院達第一號 三十三年五月十一日
明治二十六年會計檢査院達第二號支出證明規程左ノ通改正ス

支出證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ仕拂命令官又ハ作業事務長作業支部局長學校長圖書館長若クハ其支部長ノ調製スヘキ支出計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 左ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

- 一 科目更正若クハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルトキハ其金額事由
- 二 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ組入ルヘキモノアルトキハ其金額事由

三 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

第三條 最終支出計算書ニハ豫算各目増減事由明細書及年度末日現在人員部局別官等俸給明細書ヲ添付スヘシ

作業事務長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 受拂勘定表但物品會計官吏毎ニ區分シタル各種物品價格受拂仕譯書ヲ要ス
 - 二 年度末日計算表
 - 三 固定資本價格増減明細書並其評價書類及鐵道修理費調書
 - 四 材料素品機械運轉用品生産品又ハ造船材料鐵道用品ニシテ年度末ニ於テ其價格ヲ改定シタルモノアルトキハ每件其事由及市價又ハ生産費調書
 - 五 支出未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書
 - 六 代價收入済ニシテ物品未渡ニ係ルモノアルトキハ每件其金額事由明細書
- 學校長又ハ圖書館長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ

添付スヘシ

- 一 維持資金及特別資金明細書
- 二 支出未済支出残額又ハ仕拂未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書
- 三 歳入残餘ニシテ維持資金若クハ特別資金ニ組入レタルモノアルトキハ其金額調書

第四條 最終支出計算書提出ノ際概算渡現金前渡ノ精算ニ至ラサルモノ前金拂ニ係ル製造又ハ物件ノ購買ニシテ其事ノ完了ニ至ラサルモノ及誤拂過渡科目違ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ

最終支出計算書提出ノ後誤拂過渡科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ

前二項ノ各事項ハ處分完結ニ隨ヒ其證憑書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第五條 支出ノ證憑トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事又

ハ物件ノ購買借入ニ關スル契約書及請求書其他支出ノ所由竝計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雑ニ涉ルモノハ明細書若クハ説明書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書若クハ決議書等ヲ添付スヘシ

集合仕拂命令集合仕拂請求書及金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂命令仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ在リテハ金庫ノ領收證書ヲ提出スヘシ

領收證書ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號ヲ付記スヘシ

第六條 證憑書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キ場合ニ在リテハ當該官吏ノ保證アル謄本ニ其事由ヲ付記シ之ヲ提出スヘシ

外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ付スヘシ

第七條 俸給其他一定ノ給與ニシテ其給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ證憑書ニ付記スヘシ

文官ノ新任者再任者轉任者ニ係ル俸給又ハ退官賜金ノ證憑書ニハ其履歷

書新任者ニ對シテハ其任官資格ヲ認ムヘキ書類ヲ添付スヘシ
恩賞諸祿ノ繼續支給ニ係ルモノハ其年額及受領者ノ舊官名ヲ示シ又遺族
ノ受領ニ係ルモノハ其權利ノ起因ヲ證憑書ニ付記スヘシ
俸給其他ノ支給ニシテ其規定ノ期限ニ依ラサルモノアルトキハ其事由ヲ
證憑書ニ付記シ轉任退官死亡等ニ依リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ之
ヲ報告スヘシ

第八條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日里
程宿泊場所ヲ詳記シタル明細書ヲ添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ
付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得
旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ由リ特ニ日數ヲ要
シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルモノアルトキハ當該
上官ノ認許書ヲ提出スヘシ

第九條 競争契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル
證憑書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書類
 - 二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ
 - 三 豫定價格調査但其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ
 - 四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書
- 競争ノ落札者請負又ハ購買借入ノ契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル
場合ニ在リテハ尙前回ノ競争ニ關スル前項ノ書類ヲ其證憑書ニ添付スヘ
シ

第十條 隨意契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル
證憑書ニハ其決議書類及競争契約ニ依ラナリシ理由ヲ詳記シタル説明書
ヲ添付スヘシ
工事又ハ物件ノ購買借入ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度
ノ入札ニ付スルモノ豫定價格ノ制限ニ達セスシテ隨意契約ヲ爲シタルモノ
ハ其事由ヲ付記シ第九條ニ規定シタル書類ヲ提出スヘシ
第十一條 五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル契約ニシテ其締結

後變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノハ決議書及其關係書類ヲ證憑書ニ添付スヘシ

第十二條 五百圓以上ノ工事ニ關スル證憑書ニハ會計規則第六十七條第一項ニ依リ監督官吏若クハ技術者ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ヒタルモノハ其證憑書ニ會計規則第六十七條第二項ニ依リ検査官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十三條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初支出ノ證憑書ニハ其設計書仕譯書設計圖面及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初支出ノ證憑書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終支出ノ證憑書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既濟ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製ス

ヘシ

竣功明細書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 工事ニ其工費豫算ヨリ代價ヲ支辨セスシテ物品又ハ勞力ヲ使用シタルトキハ其種類及見積價格ヲ記載シタル明細書ヲ證憑書ニ添付スヘシ但證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

第十五條 物件ノ購買又ハ賠償ニ關スル證憑書ニハ其名稱種類品位數量及單價ヲ明示シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

前項ノ證憑書ニハ官有財産簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ付記スヘシ

第十六條 諸拂戻ノ證憑書ニハ其支出ヲ要スル事實ノ生シタル年月日及支出ノ請求ヲ爲シタル年月日ヲ付記スヘシ

第十七條 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ納付シタルモノハ歳入ノ徴收ヲ監督スル官吏若クハ當該金庫ノ保證書ヲ提出スヘシ

第十八條 證憑書ハ豫算各目ニ區分編纂シテ其金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概

算渡ニ係ルモノアルトキハ其金額ヲ付記スヘシ但金庫ノ領收證書ニシテ
各目ニ區分シ難キモノハ其關係書類ト共ニ各項ニ區分編纂シ各目仕譯書
ヲ添付スヘシ

概算渡ニ對スル精算證書ハ其概算渡ヲ爲シタル月ヲ以テ區分スヘシ
證書ノ編纂ニ關シ特ニ區分ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

附則

第十九條 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

作業及鐵道會計支出證明規程官立學校及圖書館會計支出證明規程鎮守府
造船材料資金會計支出證明規程官設鐵道用品資金會計支出證明規程葉煙
草專賣資金會計支出證明規程及明治二十七年會計檢查院達第二十五號明
治三十一年會計檢查院達第四號ハ明治三十一年度限り廢止ス

(別記)

- 一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
- 一 計算書ノ用紙ハ礬沙引厚質美濃紙ニツ折ヲ用ヒ曲尺一寸餘ノ綴代ヲ

存スヘシ

- 一 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ
- 二 線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

明治何年度
何年何月
歲出經常部
何々(款) 何々(款)
歲出臨時部
何々(款) 何々(款)
支出計算書
證憑書何冊
何々々
應名

計	摘要	仕拂命令済額	
		(仕拂請求額)	
円	銭	円	銭
	經常部		
	何々(款)		
	何々(項)		
0	何々(目)	0	
0	何々	0	
0	何々	0	
0	計	0	
	何々		
0	何々	0	
0	何々	0	
0	計	0	
	臨時部		
	(經常部ニ同シ)		

六〇三

括	仕拂豫算残額 (豫算残額)	計	備考
	0	0	○此總括ハ最終證明ノ月ニ於テ提出スヘシ
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	
	0	0	

六〇三

令 濟 額
發 行 濟 額)

本月戻入額			計			備 考
円	銭	厘	円	銭	厘	
0			0			
0			0			
0			0			
0			0			
0			0			
0			0			
0			0			
0			0			
0			0			
0			0			

總

仕拂豫算額 (豫算額)			増			減		
円	銭	厘	円	銭	厘	円	銭	厘
0			0			0		
0			0			0		
0			0			0		
0			0			0		
0			0			0		
0			0			0		
0			0			0		
0			0			0		
0			0			0		

令 濟 額 發 行 濟 額)		
本月戻入額	計	備 考
円 銭 厘	円 銭 厘	
		○此仕拂命令濟額(仕拂請求書發行濟額)ハ現金前渡ノ分ヲ除ク
		○資金部ノ支出ハ臨時部ノ次ニ掲記スヘシ

仕 拂 命 書 (仕 拂 請 求 書)				
摘 要	前月迄命令額 (前月迄請求額)		本月命令額 (本月請求額)	
	円	銭 厘	円	銭 厘
經 常 部 何々(款)				
何々(項)				
何々(目)	0		0	
何々	0		0	
何々	0		0	
計	0		0	
何々				
何々	0		0	
何々	0		0	
計 合計	0		0	

令發濟額 (發行濟額)

納付額		計		備考
本月納付額	計	計	計	
0	0	0	0	○常時若クハ隨時現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ヲ爲シ ○タルトキハ其仕拂計算書ヲ提出シタル時ノ翌月分ヨ リ後任官吏ノ仕拂ニ其計算額ヲ併算シ其事由及各項ノ 金額ヲ備考ニ掲スヘシ ○金額ノ前渡ヲ受ケタル官吏ニシテ仕拂ヲ完結シタ ルトキハ其仕拂計算書ヲ提出シタル時ノ翌月分ヨリ 集トキニ其計額ヲ併算シ其月限リ該人名ヲ備考 ニ掲スヘシ
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	

命拂書 (仕拂請求書)

摘要	前月迄命令額 (前月迄請求額)	本月命令額 (本月請求額)
	円 銭 厘	円 銭 厘
臨時部 (經常部=同シ)		

前 金 前
(現 金 前)

摘 要	前月迄命令額 (前月迄請求額)		本月命令額 (本月請求額)	
	円	銭	円	銭
何廳何官氏名				
何々(款)	0		0	
何々(項)	0		0	
何々	0		0	
計	0		0	
何々	0		0	
何々	0		0	
計	0		0	
何廳何官氏名	0		0	
何々々々	0		0	
何々々々	0		0	
合計	0		0	
何々々々	0		0	
何々々々	0		0	
合計	0		0	
集 合 部 々	0		0	
何々々々	0		0	
何々々々	0		0	
合計	0		0	
総計科目別	0		0	
何々(款)	0		0	
何々(項)	0		0	
何々	0		0	
計	0		0	
何々々々	0		0	
何々々々	0		0	
計	0		0	

命 拂 仕 渡
書 請 拂 仕 渡

本月戻入額	計		入 附 入 前月迄納付額
	円	銭	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	
0		0	

何れも概算

摘要	概算渡額			精		
				仕拂額	戻入額	
	円	銭	厘	円	銭	厘
三十二年四月分	100000			0	0	
ク 五月分	50000			40000	10000	
ク 六月分	50000			0	50000	
ク 七月分	50000			50000	0	
ク 八月分	50000			30000	10000	
計	300000			120000	70000	
					(後月分之)	
三十二年四月分	100000			50000	10000	
ク 八月分	10000			0	0	
ク 八月分	90000			20000	10000	
計	200000			70000	20000	

渡内譯

算額		未精算額	備考
歳入納付願	計		
円	銭	円	銭
0	0	100000	
0	50000	0	
0	50000	0	
0	50000	0	
0	40000	10000	
0	190000	110000	
例) 10000	70000	30000	
0	0	10000	
0	30000	60000	
10000	100000	100000	

過年度支出内譯

摘要	金額	
	円	銭
<p>○特別會計ニシテ前年度ヨリ繰越シタル支出未済額 (支出残額)ヲ支出シタルトキハ特ニ前年度支出未 済額支出(支出残額支出)ノ題目ヲ設ケテ其科目金 額事由ヲ記載スヘシ</p> <p>○事ノ複雑ニ涉ルトキハ科目及合計金額ノミヲ掲記 シ別ニ事由明細書ヲ添付スルコトヲ得</p>		

科目更正 定額戻入 歳入納付

摘要	金額	
	円	銭
<p><u>科目更正</u> 應 費 通信運搬費 何月分仕拂命令第何號何某渡金若干圓何科 目ヲ以テ整理ノ處何々ニヨリ本科目ニ更正 セリ</p>	計	0
<p><u>定額戻入</u> 俸給及諸給 奏任俸給 何月分仕拂命令第何年何官何級俸何某渡ノ 内何月日何廳何官ニ轉任セシニ付何日分俸 給過渡返納ノ分定額へ戻入セリ</p>	計	0
<p><u>歳入納付</u> 雜給及雜費 備人料 何月分仕拂命令第何號何某渡ノ内何々ニヨ リ誤拂ヲナシタルニ付何年度歳入トシテ納 付セリ別紙證書第何號ノ如シ 何月分仕拂命令第何號何某渡ノ内全上</p>	計	0
<p><u>過年度支出</u> 旅 費 內國旅費 何年度何月分仕拂命令第何號何某渡旅費何 々ニヨリ支給不足ノ分本年度ニ於テ支出ヲ 要シタルモノナリ</p>	計	0

明治何年度何年何月支出計算證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

○大藏省訓令第二十八號 三十一年四月十九日

稅務管理局

市町村交付金ハ所屬年度間左記ノ區分ニ依リ稅務署長ヲシテ徵稅簿ニ基キ
每稅目市町村ノ實收合計金額ヲ報告セシメ之レニ依リ交付ノ手續ヲ爲スヘ
シ

四月ヨリ九月迄

十月ヨリ三月迄
(所屬年度ハ金庫へ納付濟ノ月ニ依ル) 各翌月十五日以内

○內務省縣甲第七號 二十六年三月

市町村ノ收入取扱方ニ關シ左之通決定相成候間爲御心得此段及通牒候也

一 市町村ノ收入ハ總テ收入役之ヲ取扱フヘキモノナレハ之ニ對スル領收
証モ亦收入役ノ名義ヲ以テ之ヲ發スヘキモノトス

○內國稅徵收費支辨ニ係ル職工賃中廳費支辨ニ屬スルモノ、區分

○内國稅徵收費支辨ニ係ル職工賃中左ニ記載ノ類往々雜給ヨリ支出ノ向モ有
主稅局長通牒 廿七年四月坤第一三八三號

内國稅徵收費支辨ニ係ル職工賃中左ニ記載ノ類往々雜給ヨリ支出ノ向モ有
之候得共右ハ自今廳費支辨ニ屬スルモノトニ省議決定相成候ニ付此段及御通
知候也

一 狀袋製造用紙礮水引野版類印刷反古漉返器具類修補等ノ類ニシテ各數
量單價ヲ基礎トシテ賃金ヲ定メタル職工賃

○稅則違犯物件運搬費ハ告發以後ニ係ル分ハ徵收費ノ支辨ニアラス

二十八年五月
鹿兒島縣伺

稅則違犯物件保管証書ヲ以テ告發セシ後裁判所ノ照會ニヨリ物件送付ニ係
ル運搬費ハ徵稅費ヨリ支辨ノ限ニアラスト先年本縣ヨリ問合ニ發シ主稅
局長ヨリ回答アリ然ルニ裁判所ニ於テハ犯則物件ハ告發ノ際添付スヘキモ
ノナレハ該費ノ支出ヲナシ難キ旨通牒アリ右ハ依然徵稅費支辨ノ限ニアラ
スヤ

大藏省指令 二十八年五月十三日

檢事ノ保管証書ヲ以テ犯則物件ヲ受理セシ以後ニ係ル費用ハ内國稅徵收費
支辨ノ限ニアラス

○責任免除ノ税金ニ對シ市町村へ交付金ヲ交付ス 二十九年二月十九日
千葉縣照會

明治二十二年勅令第三十三號ニ依ル國稅金ニシテ一旦市町村役場へ徵收ノ
上避クヘカラサル變災ニ野其稅金ヲ亡失シ國稅徵收法第五條ニ依リ責任
免除ヲ得タルモノ其稅金ハ一旦之ヲ徵收セシト雖モ金庫へ納付ノ義務ヲ完
ツセシモノト云フヘカラサルヲ以テ該金額ニ對シテ市町村交付金ハ之ヲ交
付スルノ限ニ無之ヤ又ハ市町村交付金ハ國稅徵收法第三條ニ徵收金ノ百分
ノ四ヲ交付ストアルニ依リ本問ノ如キ正當ノ事由ニ依リ其責任ヲ免セラレ
タルモノニ在テハ縱令金庫ニ納付セサルモ其徵收金額ニ對シテハ之ヲ交付
スヘキ義ナルヲ果シテ後段ノ通トセハ其交付金支出ノ年度區分ハ其責任免
除ノ日ノ屬スル年度ノ所屬トスヘキヤ

大藏省主稅局回答三十九年五月坤第一二七六號
後段及末段見込ノ通

○物品購入代價ノ類ニシテ契約ヲナシタル日ノ所屬年度説明ノ件
三十一年三月二日坤第一九三三號
主稅局長通牒

會計規則第二條第四號中ニ物品購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル
年度トアルハ其年度内ニ契約ノ履行ヲ終ル場合ヲ指シタルモノト御了知有
之度就テハ歲入出及物品出納簿等ニシテ年度開始ト共ニ需用ノ必要アルモ
其調製即時ニ相整ハサルモノニ限り右會計規則ノ趣旨ニ因リ前年度ニ於テ
調製スルモ差支ナキモノトス
依命通牒

○犯則者處分費ノ科目區分 三十一年十二月八日
省議決定
間接國稅犯則者處分費ハ科目解疏等ヨリ案スルニ犯則者ヲ檢舉シタル時ヨ

リ之カ處分ノ結了ニ至ル迄ノ間直接ニ要セシ費途ノ支出科目ニシテ即チ處
分上直接ニ要セシ費目ヲ指稱セシモノト存セラル故ニ犯則處分ノ統計整理
若クハ監督等ニ屬スル事務ノ如キハ事處分上ニ關スト雖モ處分ノ一部ニア
ラスシテ處分ニ伴フ普通事務ニ外ナラサルヲ以テ通常事務費ヨリ支出スル
方至當トス

目今稅務管理局ニ於テハ概テ右ノ解釋ヲ以テ區分セリ然ルニ或ル數局ニ在
テハ犯則處分費ハ處分法及同施行細則ノ執行上ニ要セシ費用ノ科目ナレハ
其直接タルト間接タルトヲ問ハス總テ犯則者處分費ノ目ヲ以テ整理スル
トノ意見ニ由リ區別スル向モ有之取扱上區々ニ涉ルヲ以テ茲ニ決義ヲ仰
ク

○市町村交付金ノ証憑書ハ分任收入官吏ノ報告セル調書ニ依ルノ件

現金領收証書未到達ニ係ル支出証憑書類提出方ノ義ニ付十一月十二日付送第
三十一年二月十四日送第一四九號
會計検査院照會

一二號ヲ以テ及照會置候處市町村交付金ニ關シテハ特ニ仕譯書調製ヲ要セ
ス分任收入官吏ノ報告セル市町村別國稅徵收額及交付金額調書御差出相成
差支無之候間爲念照會候

○市町村ノ徵收還付シタル税金ニ對シ交付金ヲ交付セサル件

三十一年六月一日
東京稅務管理局伺

市町村ニ於テ收稅官吏ヨリ發シタル納額通知書ニ依リ徵收シタル既收税金
ヲ國庫ヘ納付セサル以前ニ於テ減額通知ヲ受ケタルニ依リ其既收税金ノ幾
部ヲ納人ニ還付シタルモノアリ右ハ市町村ニ於テ正當ニ徵收シ後日事故ノ
爲異動ヲ生シタルモノニ付已ニ徵收濟ノ事實ノ存在スル以上ハ國稅徵收法
第五條第二項ニ依リ還付ニ係ル部分ニ對シ交付金ヲ給スヘキモノニ有之候
乎又ハ正當ノ徵收ナルモ國庫ヘ納付セサル以前ニ於テ市町村限り之ヲ納人
ヘ還付シタルモノ、如キハ政府ハ其ノ徵收ヲ認メサルニ付交付金ヲ給スヘ
キモノニ無之候乎若シ前段ノ如ク果シテ交付金ヲ要スルモノトセハ本年四

月大藏省訓令第二十八號ニ徵稅簿(稅務署ニ設備ノ分)ニ基キ云々トアルニ依リ右還付
金ニ對スル分ハ交付ノ手續ヲ爲スニ依據スヘキモノ無之差支候條何分ノ指
揮相成度

大藏省指令 三十一年六月十六日第一二七五號
交付金ヲ交付スル限ニアラス

○大藏省告示第十號 三十一年三月四日
金庫開庫時間本年四月一日ヨリ左ノ通相定ム

各金庫

一 午前第九時ヨリ午後第三時マテ
但土曜日ハ正午限リ閉鎖ス

○大藏省訓令第二百二十二號 廿三年十月三日

會計主務官

金庫出納役

送金ヲ要スル仕拂命令及仕拂請求書ニ對シ金庫ヨリ現金送達シ後債主ヨリ規定ノ領收證書ヲ金庫ニ向ケ回送シ途中ニ紛失シタル場合ニ於テハ金庫ヨリ債主ニ向テ更ニ適宜ノ領收證書ヲ請求シ之ヲ規定ノ領收證書ニ代用スルヲ得ル儀ト心得ヘシ

○勅令第八十四號 二十二年六月十一日

物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及ヒ其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受ケタル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會入之ニ署名スヘシ

第十四條 (二十四年七月勅令第七十七號ヲ以テ本條削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四ヶ月以内ニ證據書類ヲ添ヘ之

ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部局長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏

身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

○大藏省訓令第三十七號 二十五年六月十八日

明治二十二年九月當省訓令第六十號内國稅徵收費所屬物品會計規程左ノ通り改定來ル七月一日ヨリ施行ス

内國稅徵收費所屬物品出納規程

第一條 内國稅徵收費所屬ノ物品ハ總テ此規定ニ從フ

第二條 物品出納ノ命令ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏之ヲ行フヘシ

第三條 直稅署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トシ物品ノ保管及之レカ出納ヲ

爲サシムヘシ但豫備ノ物品ヲ貯藏スル直稅分署間稅分署ニ在テハ直稅分署收稅屬若クハ間稅分署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トナスヘシ

第四條 消耗品中日常必要ノモノハ各員又ハ各部署ニ對シ每一ヶ月定額ヲ以テ仕拂若クハ一ヶ月以内ノ期限ヲ定メ需用概算高ヲ以テ支拂フコトヲ得但概算渡ノ物品ハ遺拂精算ヲ爲サシメ定額渡ノ物品ニシテ年度末ニ至リ殘餘ヲ生シタルトキハ之ヲ返納セシムヘシ(二十六年四月訓令第十號ヲ以テ本條中改正)

第五條 物品ヲ大別シテ左ノ二類トス

第一類 器具器械備品及第二類ニ屬セサル物品

第二類 消耗品

第六條 物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ整理スヘシ但帳簿ノ様式ハ府縣知事適宜之ヲ定ムヘシ

第一類 物品出納簿

第二類 物品出納簿

第七條 前條帳簿ノ外別ニ補助簿ヲ備フルハ便宜ニ任ス

第八條 物品會計官吏ハ府縣知事ノ定メタル期限ニ於テ帳簿ト現品トノ照合ヲ爲スヘシ

第九條 物品ノ購入及賣却ハ會計法及會計規則ノ定ムル所ニ從ヒ府縣知事之ヲ處理スヘシ但便宜他ノ官吏ニ委任シテ處理セシムルコトヲ得

第十條 官吏以下執務上必要ノ物品ハ府縣知事豫メ其品類及員數ヲ定メテ之ヲ使用セシムヘシ

第十一條 官吏以下専用ノ物品ハ各專用者共用ノ物品ハ別ニ主任ヲ定メ保管ノ責ニ任セシメ物品會計官吏之ヲ監督スヘシ

第十二條 凡ソ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其者ヲシテ物品又ハ代價ヲ以テ辯償セシムヘシ

物品ノ亡失毀損何人ノ所爲ニ出タルコトヲ認知シ難キ場合ニ於テハ其保管者辯償ノ責ニ任スヘシ但避クヘカラサル理由アルトキハ此限リニアラス

第十三條 府縣知事ハ臨時委員ヲ命シ貯藏及使用中ノ物品ヲ檢閲セシムヘシ

シ

第十四條 物品會計規則第十五條ノ物品出納計算書ハ翌年度七月十五日限リ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十五條 前條ノ計算書ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受タル官吏ニ於テ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シ期限内ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十六條 物品會計規則第十一條ノ検査官吏及第十三條ノ立會人ハ府縣知事之ヲ命スヘシ

第十七條 物品會計規則第十五條第二項但書ノ計算書ハ府縣知事他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十八條 物品出納命令ノ規程及使用中又ハ概算渡ヲ爲シタル物品ノ取扱ニ關スル處務順序ハ府縣知事之ヲ定メ大藏省ヘ申報スヘシ

○大藏省訓令第八十五號 廿三年五月十七日

北海道廳

府縣

主稅局

大藏省所管國稅ニ關スル鑑札用品出納順序左ノ通相定メ本年六月一日ヨリ施行ス

但從前ノ訓令又ハ指令中此順序ニ抵觸スルモノハ同日ヨリ廢止ス
鑑札用品出納規程

第一條 鑑札用品ハ消耗品ノ一部トシ各地方長官ノ分任代理官ノ命令ニ由リ本廳屬ヲシテ之ヲ出納セシムヘシ

第二條 鑑札用品ハ毎年三月及ヒ九月兩度ニ豫算ヲ以テ各地方收稅部出張所長又ハ島司郡長ヨリ地方長官ノ分任代理官ニ請求スヘシ但臨時必要アル場合ニ於テハ隨時之ヲ請求スヘシ

第三條 前條鑑札用品ノ配付ハ鑑札下付主任官吏之ヲ收受シ其種類員數ヲ記載セル領收證書ヲ製シ會計官吏ニ差出スヘシ

第四條 各收稅部出張所又ハ嶋廳郡役所ニ於テ直チニ製造シ又ハ買入ル、所ノ鑑札用品ト雖トモ其出納上ニ於テハ第二條第三條ノ式ヲ追フヘシ

第五條 鑑札用品ノ支出ハ其請求書ニ命令官認印ヲ押捺スルヲ以テ命令ト

做ス

鑑札用品ハ會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ以テ出トシ鑑札下付主任官ノ領收證書ヲ以テ其支出ヲ完結スルモノトス

第六條 會計官吏及鑑札下付主任官吏ハ消耗品出納簿ヲ調製シ用品出納ノ事項ヲ記載スヘシ

第七條 物品會計規則第十七條ノ計算書下検査ハ地方長官取纏メ之ヲ執行シ直チニ検査院ニ送付スヘシ

第八條 (二十四年八月訓令第六十九號ヲ以テ本條削除)

○大藏省訓令第二十四號 二十九年十一月二日

稅務管理局

稅務管理局ノ取扱ニ屬スヘキ印紙鑑札類及物品ノ出納ハ明治二十四年四月當省訓令第三十三號印紙類出納規程明治二十三年五月同第八十五號鑑札用品出納規程明治二十五年六月同第三十七號及明治二十六年四月同第十四號

内國稅徵收費所屬物品出納規程ニ據リ取扱フヘシ
但縣廳所在地ニシテ稅務管理局ノ設置ナキ地方ニ於テハ稅務署長ニ印紙
類出納規程第二條ノ出納命令ヲ委任スルコトヲ得

○大藏省訓令第三十六號 二十九年十二月二十二日

稅務管理局

明治二十三年十一月當省令第三十一號間接國稅犯則者處分法施行細則第十
五條ニ依リ沒收品ヲ領收シタルトキハ内國稅徵收費所屬物品會計官吏ノ保
管ニ付シ別ニ沒收物品出納簿ヲ設ケ整理セシムル儀ト心得ヘシ

○大藏省訓令第三十七號 二十九年十二月二十六日

稅務管理局

特別用文具使用規則左ノ通相定メ明治三十年一月一日ヨリ施行ス
特別用文具使用規則

第一條 左ノ文具ハ事務上必要ト認ムルトキニ限り共用又ハ專用トシテ使
用セシムルコトヲ得

第一類 共用品

(三十年二月大藏省訓令第九
號ヲ以テ保存ヲ共用ト改正)

一 文鎖

製圖上特殊ノモノ

一 渾發

同上

一 烏口

同上

一 定規

同上

一 尺度

同上

第二類 專用品

(全上ヲ以テ消耗
ヲ專用ト改ム)

一 筆

辭令書記專用

一 墨

同上

一 各色「インキ」

簿記用

一 「インキ」壺

同上

一 丸定規

同上

- 一 「ペン」先 同上
- 一 紫「インキ」 複寫用

第二條 第一類品ハ共用主任ヲ定メテ之ニ交付シ第二類品ハ各主務者ニ交付シ使用セシムルモノトス

第三條 特別文具使用制限ノ方法ハ稅務管理局長之ヲ定メテ主稅局長ヘ報告スヘシ

附則

第四條 第一條ニ指定ノ品目外ニシテ必要ノモノアルトキハ其品目用途ヲ詳悉シ伺出ヘシ

○勅令第九十三號 二十三年九月一日

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定

メタル價格其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○大藏省訓令第四十一號 廿三年三月二十日

造幣局 北海道廳 府縣

當省所管歲出支辨ニ屬スル工事又ハ物品購買ニ關スル諸契約ハ仕拂豫算ヲ以テ仕拂命令ヲ委任シタル金額内ニ係ルモノハ其被任者ニ於テ契約締結スルコトヲ得

○大藏省訓令第七十四號 二十三年五月八日

府 縣

内國稅徵收費ニ屬スル物件ノ借入又ハ不用物品ノ賣却ニ關スル諸契約ハ府縣知事ニ於テ適宜締結スルコトヲ得

但物件ノ借入ハ仕拂豫算ヲ以テ仕拂命令ヲ委任シタル金額内ニ係ルモノトス

○大藏省訓令第五十五號 二十三年四月一日

府 縣

明治二十三年度以降内國稅徵收費所屬經費ニ係ル明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十七條ノ検査官吏及第百條第一項第二項ノ場合ニ要スル官吏ハ仕拂命令被任者ニ於テ之ヲ命スルコトヲ得

○閣令第五號 三十一年八月十二日

明治八年太政官第百十號達ヲ左ノ通改正ス

公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及往復スル書類ニ用キル印章ハ勅任官ハ方九分_{尺曲}奏任官ハ方七分_{尺曲}判任官ハ方六分_{尺曲}トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

○會計検査院達第二號 二十八年六月十七日

物品出納證明規程左ノ通定ム

但物品出納證明程式ハ本規程施行ノ年度ヨリ廢止ス

物品出納證明規程

第一條 物品會計規則第十五條ニ據リ物品會計官吏ノ證明スヘキ物品出納計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 物品出納計算書ニハ器具、機械、備品、消耗品、動物其他物品ノ種類若クハ所用ノ目的ニ依リ適宜類別シテ每品之ヲ列記スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集合スルモ妨ケナシ

第三條 物品出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ但一項乃至三項ハ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書
二 消耗拂及生産ノ爲メ拂出ノ物品ニ對シテハ各其領收證書
三 保管轉換ノ爲メ仕拂ノ物品ニ對シテハ當該官吏ノ領收證書

- 四 賣拂品ニ對シテハ品質、數量、代價、賣拂ノ年月日及其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書
- 五 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ當該上官ノ認定アル品質、數量、價格及其亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタル證明書其辨償ニ係ルモノハ尙其物品ノ數量及辨償金額ノ仕譯書
- 六 贈與拂ノ物品ニ對シテハ其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書
- 第四條 前條ノ證憑書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ
 - 一 證憑書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ
- 第五條 左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ
 - 一 證憑書類中他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其事由

- 二 現在品ノ内地遞送中ノモノアルトキハ其數量及事由
- 第六條 常時出納ヲナサル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ニシテ物品會計規則第十八條ニ據リ調書ヲ以テ證明スル場合ニ於テ前回ノ證明高ニ對シ増減異動アルモノハ其仕譯書ヲ添付スヘシ但其證憑書類ハ前各條ノ例ニ依ル
- 第七條 下検査官吏ハ計算書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度八月三十一日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
- 第八條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 計算書其他證憑書類ノ件名冊數
 - 二 計算書ト物品出納簿トノ符合及其現在品ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
 - 三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由
- 第九條 物品出納ノ證明ニ關スル審理書及之ニ對スル報答書ハ總テ下検査

官吏ヲ經由スヘシ
 第十條 一廳ニ限リ又ハ物品ノ種類ニ依リ特ニ要スル證明ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

附則

第十一條 本規程ハ明治二十八年年度ヨリ施行ス
 (別記)

明治何年度
 物品出納計算書

- 凡例
- 一 計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 - 二 物品會計官吏交替ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ノ次ニ其名取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
 - 三 計算書ノ用紙ハ厚質縹沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴代ヲ明クヘシ
 - 四 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

五 證憑書類中検査結了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名冊數ヲ計算書ニ付記スヘシ

現在之部				備考
供用中	貸出	在庫	計	

品目	受之部					
	越高	買入	生産	戻入	保管 轉換	何々
備品						
何々						
消耗品						
何々						
何々						
何々						
身元保証金						
現金						
公債証書額面						
土地臺帳登記價 格						
保証人 氏名						
ク ク						
身元保証金ヲ 要セサルトキ ハ其事由ヲ記 載スヘシ						

六四五

計	拂之部						計
	消耗	賣拂	亡失 毀損	生産 ノ爲	保管 轉換	贈與	

六四四

明治何年度物品出納計算書面之通相

違無之候也

物品會計官吏官氏名印

會計檢査院長宛

年 月 日

○第一一六〇號

三十二年六月十日
大藏大臣達

官房第四課、專賣局、税關、
稅務管理局、臨時沖繩縣土地整理事務局

會計檢査院法第十六條ニ依リ今般會計檢査院ヨリ本省所管物品（印紙類ヲ除ク）出納計算ノ檢査及責任解除ヲ本省ニ委託ニ付部局所屬物品出納計算ノ檢査ハ部局長ニ於テ之ヲ執行シ左ノ事項ヲ報告スヘシ

但シ本文ノ檢査ハ明治三十一年度ヨリ執行スル義ト心得ヘシ

一 檢査ノ成績ハ年度經過後八箇月以内ニ之ヲ報告スヘシ
若シ前項ノ期間内ニ檢査未済ニ係ルモノアルトキハ其事由ノ報告シ檢査終了ノ上直ニ其成績ヲ報告スヘシ

一 檢査成績報告書ニハ物品所屬部局名、物品會計官吏官氏名及其ノ出納管理期ヲ明記スヘシ

一 物品會計規則第十五條ノ計算書ハ物品會計官吏ヲシテ物品出納簿ヲ以テ其ノ計算書ニ充テ證明セシムルコトヲ得

前項ノ證明ニ對シ検査ヲ執行シタルトキハ物品出納簿ノ末尾ニ検査結了ノ年月日及検査済ノ旨ヲ記入シ之ニ捺印スヘシ

○局署印門標ノ寸法雛形ノ件 二十九年十月廿四日主秘第一六七號
主稅局長通牒

拜啓今般稅務管理局被置候ニ付テハ各自官印ノ義ハ夫々任命ノ上調製可然モ差向キ局署印標札ハ必要ニ付左ノ雛形ニ依リ手續ノ爲メ調製方御命シ相成度尤徵稅費支出上ノ都合モ有之候間代價請求ハ施行後管理局へ申出サセ同局ヨリ支拂フヘキ都合ニ御取計置相成度候

(雛形)

方一寸五分

寸法適宜

印 何々稅務
管理 局
之 鑑 印

門標 何々稅務管理局

方一寸一分

寸法適宜

印 何々
稅務 署
之 鑑 印

門標 何々稅務署

○物品會計官吏交替ノ際物品出納簿へ署名省略方ノ件 三十一年八月三日
東京稅務管理局上申

物品會計官吏交替ノトキ事務引繼手續ノ義ハ二十三年御省訓令第五十四號出納官吏事務引繼手續ニ依リ處理セシムルハ勿論ニ候處物品會計官吏ノ物品出納簿ハ收入官吏收入簿現金出納簿ト異ナリ其科目品名等數多有之加之各稅務署ノ如キハ人員配置ノ必要上ヨリ自然該官吏ノ交替頻繁ナルカ爲メ毎ニ物品出納簿ニ兩物品會計官吏署名捺印セシムルハ實ニ容易ナラサル手數ニ有之候尤該官吏交替ノ場合ニ在リテ何レモ引繼ヘキ帳簿證憑書其他

書類ノ目錄ヲ作り后任物品會計官吏立會ノ上現物ニ照シ受授ヲ了シ兩物品會計官吏署名捺印スルヲ以テ其引繼ヲナシタル事實ハ明瞭ナルカ故ニ物品出納簿ニ在リテハ最終記帳ノ下ニ單線ヲ畫キ合計高ヲ記載シ其下ニ二線ヲ畫クニ止メ年月日兩物品會計官吏署名捺印方省略致シ候ハ、大ニ取扱上繁冗ヲ省キ至極便宜ト視認候ニ付當局ニ於テハ右様取扱度候特ニ御承認相成度

大藏省指令 三十一年八月十五日第一七二七號

聽許ス但シ最終記帳ノ下適宜ノ所ニ前後兩會計官吏檢印シ置クヘシ

○第一一八二號

三十一年六月二日
大藏大臣達

稅務管理局

官廳所在地々域内ノミヲ擔當シ常時巡回スル收稅官吏ニ對シテハ大藏大臣指定ノ場所ニ限リ其ノ日數ニ應シ左ノ金額以内ニ於テ定額拂切ヲ以テ車賃ヲ支給スヘシ但管理局長ハ支給金額及施行期日ヲ定メ届出ヘシ

一 間稅檢查監督員

一日 金參拾錢

一 間稅檢查員

一日 金貳拾五錢(三十二年二月六日改正)

右相達ス

○計算書表紙記載方 三十一年十月二十六日官報

會計検査院へ証明ノ爲メ提出スル計算書ニ屬スル証憑書類ニ添付スヘキ目錄書ハ自今省略シ其計算書表紙ニ左記雛形ノ通記入スルコトニ改メタリ

年 度	何 々	何 計 算 書	冊 何	證 憑 書	何 々 々	何 々 々	名 應

第七章 旅費

○勅令第三百三十三號 三十年九月二十四日

内國旅費規則

- 第一條 内國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ之ヲ支給ス
- 第二條 内國旅費ハ分テ四等トシ別表定ムル處ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス
- 第三條 汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス
- 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス
- 官用ノ船舶ニテ旅行シ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ支給ス
- 第四條 官用ノ舟車馬等ニテ旅行スルトキハ本令ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ支給セス

- 旅行ノ性質又ハ地方ノ情況ニヨリ定額ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得
- 第五條 強雨積雪又ハ道路險惡ノ爲メ定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ定額二倍以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得
- 第六條 汽車賃船賃車馬賃ヤ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿端數ハ路程ハ切捨トス
- 第七條 年度若クハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ汽車旅行若クハ水路旅行ニシテ其區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其路程ヲ區別シテ計算ス
- 第八條 陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス
- 第九條 在勤應所在地ノ市區町村内ヲ巡廻シ遠距離ニ涉ルトキハ一日五十錢以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得
- 第十條 赴任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ汽車賃船賃及車馬賃ニ限リ

定額ノ二倍ヲ支給ス
第十一條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給ス

第十二條 旅行中廢官退官非職退職若ハ死亡ノモノニハ前官若ハ本官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退官

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但シ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但シ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第十四條 測量土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡廻スル官吏又ハ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シテ各省大臣ハ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 各省大臣ハ旅費ノ定額ヲ減少シ若ハ其一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十六條 事務引繼殘務取調等ノ爲メ廢官若ハ退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 新ニ任用スル爲メ召喚スルトキハ新任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十八條 陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其他本令ニ明文ナキモノノ旅費ハ別表ニ準シ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附 則

第二十條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣内ノ旅行ニ限リ旅費定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ニ協議シ定額ノ旅費ニ對シ必要ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣在勤滿二年以上ニシテ廢官諭旨退官

若ハ非職トナリ三十日以内ニ同地出發歸郷スルモノニハ前官若ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ第十三條ノ例ニ據ル

臺灣在勤中死亡ノ者アルトキハ本條ニ準シ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第二十二條 本令ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス
(別表)

旅費額		等	級	流車賃	船賃	車馬賃	宿泊料	日當	食卓料
				一哩 三付	一海里 二付	一里 二付	一夜 二付	一日 二付	一日 二付
一等	親任官七	錢七	錢	三十五錢	三	圓	二圓	五十錢	一圓
二等	勅任官六	錢六	錢	三十錢	二	圓	一圓	五十錢	一圓
									五十錢

三等	奏任官五	錢五	錢	二十錢	一	圓	五十錢	一	圓
四等	判任官四	錢四	錢	十五錢	一	圓	五十錢	九	十錢

(三十二年三月勅令第百八號ニテ流車賃改正)

○勅令第百二十一號 二十二年十一月二十日

旅費其外概算渡前金渡方

第一條 内國及外國出張ヲ命シタル者ノ旅費ハ旅行ノ見積リ行程及日數ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二條 外國留學ヲ命シタル者ニ支給スル學資金及諸手當ハ給額半ケ年分以内ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

第三條 地方稅ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費連帶支辨金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四條 本令ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○布告第三百三十號 五年四月二十四日

今般海軍省ニ於テ別紙ノ通相定候條其旨可相心得尤海里ハ普通陸里ト不混様可致事

- 一 海里ハ一度六十分一ヲ以テ一里ト定ム即チ陸里十六町九分七厘五毛ナ
- 一 尋ハ曲尺六尺ヲ以テ一尋ト定ム

但測量圖海底ノ淺深ハ干潮ノ時間尋數ヲ以テ定ムルモノトス

- 一 經度ハ英國「グレーンウーチ」ヲ以テ暫ク初度トス
- 但我國ニ在テハ東京海軍省標竿ヲ以テ東經一百二十九度四十五分二十五秒零五ト定ム

○大政官達第五十七號 十七年六月十三日

官省院廳府縣

官吏職務上ニ係リ刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出頭スル時ハ治罪法ニ依リ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ルト雖トモ被告事件無罪又ハ免訴トナリタル時ハ請求セサル儀ト心得ヘシ

但旅費日當ヲ請求シタル時其金額ハ雜收入トシテ大藏省ヘ納付スヘシ

○大藏省訓令第二號 三十二年二月一日

稅務管理局

明治三十二年二月當省訓令第二十號內國稅徵收費支辨旅費支給方左ノ通改正ス

- 一 普通旅行ハ內國旅費規則及三十年九月當省達第二〇一二號ノ支給額ニ據ルヘシ
(三十二年九月五日訓令第六十三號ヲ以テ本項改正九月十一日ヨリ施行)
- 二 土地検査、間稅検査ノ爲メ稅務署所管內ノ巡廻旅費ハ左ノ日額以內ニ於テ適宜支給額ヲ定メ其ノ支給額及施行期日ヲ届出ヘシ但交通至難其他特別ノ事情アル地方ニ於テハ認可ヲ經テ壹圓貳拾錢以內ノ日額旅費

ヲ支給スルコトヲ得

土地検査

日額 九拾錢以内

間税検査

日額 七拾錢以内

土地検査補助雇員

日額 七拾錢以内

三

在勤廳所在地内ノ巡廻ニハ廳費ヲ支給セス

在勤廳所在地ニ接續スル町村若クハ其ノ一部ニシテ在勤廳所在地ト

別ニ區分ヲ要セサルモノハ在勤廳所在地ニ準シ旅費ヲ支給セサルコ

トヲ得但此場合ニ於テハ稅務管理局長ニ於テ其區域及施行期日ヲ定

メ届出ヘシ

四

管内旅費ノ支給定額ヲ減少セントスルトキ若ハ別ニ日額旅費ヲ設ケン

トスルトキハ稅務管理局長ニ於テ適宜支給額ヲ定メ其支給額及施行期

日ヲ届出ヘシ

○第二〇一二號

三十年九月三十日
大藏大臣達

當省所管經費支辨ニ屬スル雇員以下旅費額別表ノ通改定シ來ル十月一日ヨ
リ施行ス
(別表)

雇員以下旅費額

名	稱	汽車賃	船賃	車馬賃	宿泊料	日當	食卓料
		一哩 ニ付	一海里 ニ付	一里 ニ付	一夜 ニ付	一日 ニ付	一日 ニ付
雇給料三十圓以上 及稅務管理局見習 員、葉煙草專賣所 見習員	金四錢	金四錢	金四錢	金十五錢	金一圓	金五十錢	金九十錢
雇給料三十圓未滿 及巡視、寫字生共	金三錢	金三錢	金三錢	金十二錢	金八十錢	金三十錢	金五十錢
給仕、小使、馭者、 馬丁、其他小者、 諸職人ノ類	金二錢	金二錢	金二錢	金十錢	金六十錢	金二十錢	金三十錢

一 華族及有位帶勳者ノ公用ヲ以テ召喚其他旅行ノ節華族及從六位勳六等以上ハ本規則三等其以下ハ四等無位無勳ノ者ハ本表雇項ノ旅費ヲ支給ス

一 諸職人等其業ニ從事シ賃錢ヲ支給スル日ハ日當及宿泊料ヲ支給セス
一 支給ノ方法ハ總テ本規則ニ準據ス
但本規則第十條ハ準據セス(三十一年八月追加)
一 臺灣總督府及臺灣內旅行ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○第一六五四號

三十年八月十日
大藏大臣達

稅 關
稅務管理局

內國旅費支給上行程ヲ計算スルハ左ノ區分ニ據ルヘシ

- 一 海路ハ別表
- 一 陸路ハ郵便線路圖

前各項ニ據リ難キモノハ海軍省水路部遞信省鐵道局若クハ地方廳ノ證明スル所ニ據ルヘシ
(別表畧ス)

○奏任判任待遇ノ者及雇員ヨリ本官ニ任用ノトキ赴任旅費ヲ支給セサルノ件
三十一年八月三日坤第六七九八號ノ一
官房第四課長通牒

今般左記ノ通赴任旅費支給上ノ儀ニ付省議決定相成候條自今右ニ依リ御取扱相成候様致度此段申進候

- 一 奏任若クハ判任待遇ノ者ヨリ本官ニ任用ノトキ
 - 一 雇員ヨリ本官ニ任用ノトキ
- 右ハ總テ赴任旅費支給セス

○甲廳官吏乙地へ出張中直ニ該乙地又ハ他ノ丙地へ轉任ノ節赴任旅費支給方ノ件 會計検査院照會

内國旅費規則第十一條(改正第十條)ニ赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ル迄云々ノ二倍ヲ支給スヘシトアリ若シ甲地在任ノ者乙地へ出張中直ニ該乙地又ハ他ノ丙地へ轉任セシトキ其赴任旅費ハ如何支辨セシヤ云々

大藏省回答 十九年十月二十八日

甲地在勤ノ者乙地出張中乙地ニ轉任スル時ハ舊任地ヨリ新任地迄直路新任官等相當ヲ以テ瀛船瀛車々馬賃等ノ一個分(日當ヲ除ク)ヲ追給シ丙地へ赴任スル者ハ乙地ヨリ丙地迄通常旅費ヲ給シ尙舊任地ヨリ新任地迄ハ前項ノ通支給相成可然候

○非職ノ者赴任旅費ハ現任地ヨリ通常旅費ヲ支給ス

二十八年四月一日
北海道廳照會

非職ノ者ノ赴任旅費ハ規則第十一條(改正ノ十條)ニ據ルカ又ハ第十三條(改正ノ十七條)ニ據リ支給シ然ルヘキヤ

大藏省回答 二十年四月四日

非職官吏ハ客年閣令第一號第三條ニヨリ任所ニ居住スヘキ責ナキヲ以テ復

任若クハ他廳へ轉任ノ場合モ旅費規則第十一條ニ據ラス本人現任地ヨリ單ニ通常旅費ヲ支給スル儀ナリ

○往返三里ノ地へ一日内再度出張スルモ日當ヲ支給セス

二十年四月四日
三重縣問合

往返三里ノ地へ一日内再度出張セシモノアリ右ハ前後ノ通算里程六里以上ナリト雖トモ一旦歸廳セシモノニ付其ノ御用柄ノ異同ヲ問ハス打切り日當ヲ支給セサルヤ

内務省會計局回答 二十年四月

御意見ノ通

○轉任又ハ新任ノ者採用廳へ到着後辭令交附ノ當日マテ日當ヲ支給ス

二十年四月乾第九四四號
主稅局長通牒

轉任又ハ新任ノ爲メ他所ノ者ヲ呼出候節其採用廳へ到着スルモ休暇又ハ其廳ノ都合ニヨリ即日辭令書ヲ交附セサルトキハ交附ノ當日迄ハ内國旅費規

則ニヨリ日當ヲ支給候義ニ有之候處從來辭令交附ノ前日迄支給候向モ有之候ニ付二十年度以降ハ總テ當日迄御支給可有之爲念此段及御通知候也

○出張ノ途中發病シ滞在ノ者日當支給

二十年四月一日
三重縣問合

出張官吏途中ニ於テ發病セシニ付同地ニ滞在療養ヲ許可シタルモノアリ其ノ滞在中ハ私事ニ涉ルヲ以テ日當ヲ支給シ能ハサル乎

内務省會計局回答 二十年四月

發病地ニ於テ療養スルモノハ日當支給可然(追書)轉地療養ヲナス場合ニ於テハ實際ノ情況ニ依リ給否ノ別モ可有之ト存候

○旅行中暴風雨等ノ爲迂回ノ節旅費支給方ノ件 遞信省照會

第一項 甲地ヨリ瀛船ニ乗シ乙御用地(距離海上十海里)ニ向テ出發候處途

中ニ於テ暴風雨ヲ爲メ丙地(甲丙間ノ距離二十海里)ニ漂着シタルニ依リ更ニ乙地ニ到ランカ爲メ丙地ヨリ陸路甲地(距離十二里)ニ立戻リ(御用ニ都合ニ)

スアラ)再ヒ甲地ヨリ乙地へ渡航シタル場合ニ於テハ甲丙並ニ甲乙間トモ相當ノ瀛船車馬賃ヲ支給シ可然ヤ又ハ甲乙間ノ瀛車賃ノミ支給スヘク儀ニ候哉

第二項 陸路甲地ヲ發シ乙御用地ニ到ル途中川支其他障礙ニヨリ通行スル能ハス又宿泊スヘキ箇所並ニ他ニ求ムヘキ通路モ無之ニ付己ヲ得ス出發地へ一旦立戻リタル場合ハ障礙地迄ノ往復車馬賃ト更ニ迂路ヲ經過スルカ或ハ該路ノ再通ヲ待テ御用地ニ到リタル車馬賃ヲ併セテ支給シ可然ヤ

大藏省回答 二十年十二月二十四日

第一項 甲地ヨリ漂流丙地へ到着ハ實費ヲ給シ丙地ヨリ甲地へ陸路旅行ハ車馬賃ヲ給シ甲地ヨリ乙地へハ瀛船賃支給相成可然尤モ日當ハ何レモ日數ニ應シ支給セラル、儀無論ニ有之候

第二項 御意見ノ通但證明書ニ依リ御詮議相成方ト存候

○歸省中赴任スル場合ニ旅費支給方 二十一年十月 神奈川縣伺

内國旅費規則第十一條(改正ノ十條)ニ赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ(中畧)二倍ヲ支給スヘシト有之候處若シ甲廳ノ官吏郷里ニ歸省中乙廳へ採用ニ付向ヲ命セラレ其地ヨリ直ニ乙廳へ赴任セシ場合ニ於テハ歸省地ヨリ新任地(乙廳)マテ舊任廳ノ旅費支給額ヲ以旅行當時ノ官等ニヨリ通常旅費ヲ支給シ尙舊任地(甲廳)ヨリ新任地マテ直路里程ニ當ル汽船汽車車馬賃等ノ一個分(日當ヲ除ク)ヲ新任官相當ヲ以新任廳ノ旅費支給額ニ依リ支給シ可然哉差掛リ候儀有之候條至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

大藏省指令 二十一年十月

二十一年十月六日稅第一一號伺赴任旅費支給方ノ件ハ伺之通

但歸省地ヨリ新任地マテノ旅費ト雖モ新任廳ノ旅費支給額ニ依ルヘシ

○犯則事件ノ證人等ニテ出庭スル旅費ハ犯則者處分費ノ目ヨリ支出セサル

三十二年十二月廿四日坤第八九八五號ノ二件 主稅局長通牒

犯則者處分法第十六條ノ費用ヲ訴求スル場合ニ於ケル訴訟費用及其第十四條第十五條ニ依リ告發シタル以後全事件ノ證人若クハ參考人トシテ裁判所へ出庭旅費ハ孰レモ犯則者處分費ノ目ヨリ支出シ來リ居候處右ハ全費目中ヨリ支辨スヘカラサルモノト省議改定相成候右通牒候也

第八章 印紙 身元保證金

○勅令第二百七十一號 二十三年十一月十日
印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ニ依リ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ

證券印紙 手形用紙共

烟草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙

收入印紙(三十一年八月四日勅令第百八十七號ヲ以テ本項追加)

第二條 各府縣ニ左ノ印紙賣捌人ヲ置ク

元賣捌人

府縣廳ヨリ印紙類ヲ拂受ケ之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノ

トス

賣捌人

元賣捌人ヨリ印紙類ヲ買受ケ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者

ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痍又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ

恩給ヲ受クル者

二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ府縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 (三十一年八月四日勅令第百八十七號ヲ以テ本條削除)

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對ル百分ノ七以内ノ割引ヲ爲スヘシ

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ

印紙類ノ賣下代金一回貳千圓以上ハ公債證書ヲ抵當ト爲シ六箇月以内ノ

延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙類額面ニ對シ百分ノ十以
内ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得但交換印紙ハ拾錢以上
取纏メタルモノニ限ル

- 一 印紙類損傷又ハ汚染シタルトキ
- 一 印紙不用ニ歸シタルトキ

第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其効ヲ失フモ
ノトス

- 一 恩給若ハ扶助料ヲ受クル者其權利消滅若ハ停止セラレタルトキ
- 一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置并ニ第六條第八條ノ割引歩合其他此規

則ニ關スル施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ヲ量テ大藏大臣ノ許可ヲ經テ明治

二十四年一月一日ヨリ漸次之ヲ施行スベシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ラス來

ル明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第廿一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ之ヲ

施行セス

(附屬)

○大藏省令第二十一號 十九年六月八日

印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ

證券印紙 手形用紙共

煙草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙(二十一年十月二十四日省令)

收入印紙(三十一一年八月六日省令)

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲナサシム

第三條

印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得タル者ノ外賣下ヲ爲

サ、ルモノトス

第四條 北海道廳長官府縣知事縣令ハ其管内各郡區ノ實況ニ應シ印紙類賣

捌所ノ配置方ヲ計畫シ豫メ其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ベシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區内ニ居住スル者ニ限り之ヲ

許ス

一 陸軍海軍及ト官吏恩給令ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一 巡查看守給助例ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一 陸軍恩給令第二十一條第二項海軍恩給令第三十條第一項官吏恩給

令第十條ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

一 巡查看守給助例第三條第三項ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受ク

ル者

第六條 第五條ノ資格アル出願者其郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿タサルト

キハ其郡區内ニ居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令官吏恩給令巡查看守

給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定數ニ滿タサルトキハ二年以内ノ期限ヲ

定メ一般人民ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 (三十一一年八月六日省令第

第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ニ願出テ

賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出ス可シ

第九條 印紙類賣捌人改名又は同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ申出テ
標札ノ訂正ヲ受クヘシ
但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ其下渡ヲ受クヘシ
第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡スヘシ
但第五條第六條ノ受恩典者ハ其代金五百圓ヲテハ公債證書ヲ抵當ト

シテ六箇月以内之ヲカ延納ヲ許スモトスル可シ

第十一條 印紙類ノ額面ニ對シ百分ノ四ノ割引ヲ以テ賣下スル爲メモ
三十一年十月七日省令第
十六號ヲ以テ本條改正

第十二條 印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌クヲ得ス

第十三條 印紙類ハ必ズ定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌外讓與貸與スルコト
ヲ許サズ

第十四條 印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類
員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ
但煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌タルトキ買受人ノ住所氏名ヲ記載スル

クヘシ

第十五條 印紙類水火盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スル
コトヲ得ス

第十六條 印紙類賣捌人所持ス印紙片シ反損傷又ハ汚染シ若ハ不用ニ歸シ
交換スルハ十錢以上取纏スルモ以テ之ヲ交換スヘ

第十七條 交換下付印紙九十一錢
三十一年十月七日省令第
十六號ヲ以テ本條中改正

第十八條 煙草印紙賣藥印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サズ

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ煙草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ煙
草營業者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス賣藥印紙ノ賣
捌ニ關スル業務ヲ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ
委託スルコトヲ得ス
第三十條 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實

況及七現在高等ヲ検査セシムルハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府
第二十一條 此規則ニ違背シタル者アル時ハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府
知事縣令ニ於テ其賣捌方ヲ禁止スルコトアル可シ

○大藏省令第三十四號、二十三年十一月十四日
印紙類賣下賣捌規則施行細則
第一條 元賣捌人ハ本店ヲ府縣廳所在ノ地ニ置キ各間稅分署所轄内ニ支店
又ハ代理店ヲ設クヘシ

賣捌人ハ各間稅分署所轄内ヲ一區若クハ數區トシ其区内ノ地勢商業等ノ
實況ニ應シ府縣知事適宜其人員ヲ定ムルシ(三十四號ヲ以テ本項中追加)
第二條 印紙ニ對シ額面ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下ケ又ハ賣渡スモ以テス

一間稅署ヨリ元賣捌人ニ賣下クルトキ 登記印紙 百分ノ六
其他ノ印紙 百分ノ六
(三十二年八月二十五日大藏省令第三十五號ヲ以テ本項中改正)

一元賣捌人ヨリ賣捌人ニ賣渡ストキ 登記印紙 百分ノ四
其他ノ印紙 百分ノ四

第三條 規則第八條ノ割引歩合ハ額面ニ對シ左ノ如シ
一賣捌人ヨリ元賣捌人ニ請求スルトキ 登記印紙 百分ノ九
其他ノ印紙 百分ノ九

一元賣捌人ヨリ間稅署ニ請求スルトキ 登記印紙 百分ノ八
其他ノ印紙 百分ノ八

○大藏省令第三十五號、二十三年六月十一日
印紙類ノ交換又ハ買戻ヲ請求セントスルトキハ賣捌人ハ元賣捌人ニ元賣
捌人ハ間稅署ニ申出

第四條 規則第七條ノ公債證書ハ有利息ノモノニ限リ其抵當價格ハ明治三
十三年勅令第四號第三條ニ依ル

第五條 印紙類元賣捌人及七賣捌人各免許賣捌所ノ標札ヲ調製シ戶外ニ
掲出ス(三十四年三月大藏省令第三號ヲ以テ本條改正)

第六條 規則第九條ノ場合ニ於テ總テ廢業ヲ取扱ニ依ル

第七條 印紙類元賣捌人及賣捌人ハ印紙類受拂帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及年月日ヲ記載スヘシ但賣捌人ニ於テ煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌キタルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

第八條 印紙類賣下賣捌規則施行前日ニ現在スル印紙類賣捌人ハ更ニ願出ツルヲ要セス將來該規則ニ從ヒ繼續賣捌ヲ爲スコトヲ得

○大藏省訓令第二十二號 十九年六月十二日

明治十九年六月十二日 當省令第二十一號印紙賣下賣捌規則取扱手續左ノ通心得ヘシ

第二項 印紙類賣捌所ニ配置シ計器等ハ從來賣捌ノ景狀ニ依リ且土地ノ便否商况等ヲ參酌シ總テ印紙ノ賣買ニ差支ナキヲ期シテ之ヲ定ムヘシ

- 第三項 印紙類ニ需用ノ景況ト現在高トテ參酌シ凡テ分賣下見込相立第一號雜形ニ依リ主稅局ニ請求スルハ
- 第四項 印紙類ノ受拂主主任官三名以上立會ヲ要スルモノハ其時
- 第五項 印紙類賣捌所ノ標札ハ第三號雜形ニ據リ調製下付スヘシ但二種以上賣捌クモハ各種類ノ一枚ニ併記スルモ妨ガレ
- 第六項 他府縣ヨリ轉籍又ハ寄留シタル者若クハ他郡區ヨリ轉居シタル者ニシテ印紙類ノ賣捌ヲ請願スル時ハ規則第七條第三項ノ年限中ニ係ラサル者ナルハ否キ及第二十一條ニ據リ禁止セラレタルコトナキヤ否ヲ詳查ス
- 第七項 二十四年大藏省訓令第二十六號ヲ以テ本項削除
- 第八項 印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニ據リ印紙代金入延納ノ許可スル時ハ其抵當トナスヘキ公債證書ノ價格ハ明治十三年當省乙第一號達ニ據

テ之ヲ定ムヘシ
但代金延納ヲ許可シタル時ハ第五號雜形ニ倣ヒ賣捌人ヨリ上納ノ受書
ヲ差出サシムヘシ

第九項 規則第十條但書ニ依リ延納ノ代金其收入方翌年度ニ亘ル者ハ現收
入年度ノ稅表ニ編入スヘシ

第十項 印紙類ヲ運送會社ニ運搬セシメタル分ハ到達ノ節社員等爲立會檢
査ヲ遂ケ若シ損傷汚染或ハ護謨糊粘着等ニテ全ク使用シ得ヘカラサルモ
ノヲ發見シタル時ハ社員ノ手續書ヲ徵シ之ニ其枚數調書ヲ添付シ處分方
ヲ稟議スヘシ

但天災地變等ニ罹リタルモノハ本項手續書ニ社員外二名以上ノ證明ヲ
爲サシムヘシ

第十一項 印紙類萬一封中ノ員數ニ過不足を生ジタルモノアル時ハ其封紙
帶紙ニ立會官吏ノ姓名書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ

第十二項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタル時ハ主任ニ於テ即日受拂及ビ殘高ヲ記
帳シ現在高ト對照スヘシ

第十三項 前項ノ場合ニ於テ主任官交代スル時ハ帳簿ト現在高トヲ對照シ
受渡ヲナスヘシ

第十四項 印紙類賣下賣捌規則第十七條ニ依リ返納セシ印紙(代金延納ニ係
ルモノヲ除ク)
ハ其種類(長角形ヲ
區分シ)枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代金下付方ヲ
稟議スヘシ

但代金納付ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル時ハ代金納入年度ノ區
分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ

第十五項 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時各郡區役所ニ主任官ヲ派遣シ印
紙類受拂ノ實況及ヒ現在高等ヲ精査セシムヘシ

(第一號雜形)

前々年度賣下高何程

前年度賣下高何程

前年度賣下高何程

但平均一ヶ月
何程

(但前々年度前年度平均ヲ得ルコト能ハ
但サルモノハ前六ヶ月分ヲ記載スヘシ) (以上四行朱書)

何 枚

一何印紙 (印紙ノ異ル毎ニ前同シ)

右ノ何年何月ヨリ何月迄六ヶ月分及請求候也

何府縣收稅長 何府縣收稅長 何府縣收稅長 何府縣收稅長

主稅局長宛

何年何月何日

(第二號雛形)

何年月日差立何年月日到着

諸印紙類領收證書用紙	領收證	何	枚
一 烟草何久用何厘印紙	何	何	枚
一 同角形何厘印紙	何	何	枚
一 證券何錢印紙	何	何	枚
一 訴訟用何圓印紙	何	何	枚
一 賣藥角形何錢印紙	何	何	枚
一 同長形何錢印紙	何	何	枚
一 約束手形何錢用紙	何	何	枚
一 爲換手形何錢用紙	何	何	枚
右領收候也			
年月日			
主稅局長宛			
府縣收稅長 北海道廳理事官			
名			
印			

(第三號雛形)

郡區役所々轄限通シ番號

曲尺長一尺九寸

表

面

第何號	烙印
何々印紙賣捌所	
何府縣何國何郡何村何番地	
何	
某	

曲尺長一尺九寸

(第四號雛形) 用紙美濃紙

本明年何年何月印紙類賣捌人員表

郡類	區分	規則第五條ノ受恩典者		規則第六條ノ受恩典者		合計	規則第五條ノ受恩典者	規則第六條ノ受恩典者	非恩典者
		者	者	者	者				

右之通候也

年月日

主税局長宛

府縣收税長
北海道廳理事官

名

印

(第五號雛形) 延納代金上納受書

消印

印紙

印紙賣下代金上納御受書

一 印紙代金何圓

内譯

(印紙種類及枚數ヲ掲記スヘシ)

右印紙代金ノ儀、來何月何日無相違上納可仕依テ右代金ニ對シ別紙
 公債證書ヲ抵當トシテ差出候若シ上納期日ニ不納候時ハ該公債證書
 御賣拂ノ上印紙代金御徴收相成聊異議無之且印紙類ハ保護ハ勿論萬
 一水火盜難等有之候上右印紙代金ハ急度上納可致候此段御受申上
 候也

但印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ場合ニ於テハ本文ノ期限ニ拘ハ
 ラス直ニ上納可仕候也

國郡町番地
 區村番地

印紙賣捌人

年月日

名 印

他人記名ノ公債證書ヲ借受ケ抵當トスル時ハ其記名者ノ連
 署ヲ要スヘシ戸長與印同斷

北海道廳
 府縣長官宛

右相違無之依テ與印候也

右戸長

年月日

名

印

○大藏省訓令第十三號 三十二年三月十七日

稅務管理局 官房第四課

明治二十四年四月當省訓令第三十三號印紙類出納規程左ノ通改正ス

印紙類出納規程

- 第一條 印紙類ノ出納ハ總テ此ノ規程ニ依リ取扱フヘシ
- 第二條 印紙類出納ノ命令ハ官房第四課長及稅務管理局長之ヲ行フヘシ但シ縣廳所在地ニ稅務管理局ノ設置ナキ地方ニ限リ管轄稅務管理局長ハ當該稅務署長ニ之ヲ委任スルコトヲ得
- 第三條 印紙類會計官吏ハ大藏屬及稅務屬ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 印紙類ノ出納ハ左ノ區別ニ從ヒ命令スヘシ
 - 一 製造ニ係ルモノハ現印紙受領ノトキ
 - 二 請求及還付ニ係ルモノハ現印紙到達シタルトキ
 - 三 請求及還付ノ爲發送ニ係ルモノハ受領應當該官吏ノ領收證書到達シタルトキ

タルトキ

- 四 賣下ニ係ルモノハ賣捌人へ引渡ヲ爲ストキ
- 五 買戻ニ係ルモノハ現印紙ヲ納付シタルトキ
- 六 交換ニ係ルモノハ現印紙ノ授受ヲ爲ストキ
- 七 損傷汚染ニ係ルモノハ燒却又ハ糞潰ヲ爲ストキ
- 第五條 請求及還付ノ爲印紙類ヲ發送セムトスルトキハ現印紙發送ノ際發送命令ヲ爲スヘシ

第六條 前二條ノ命令ハ左ノ書類ノ欄外ニ其ノ年月日、支出、受納又ハ發送

ノ文字ヲ記載シ印紙類出納命令官之ニ認印スヘシ

一 請求書

二 引渡書

三 領收証書

四 發送報告

五 返納書

六 其ノ他願書等

第七條 稅務管理局印紙類出納命令官ハ需用ノ實況ヲ量リ所要ノ印紙ヲ概算シ其種類員數ヲ記載シ大藏省印紙類出納命令官ニ請求スヘシ

第八條 大藏省印紙類出納命令官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ

第五條ニ依リ發送命令ヲ爲スヘシ

第九條 印紙類會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ但シ整理上必要ノ補助簿ハ適宜之ヲ設クルコトヲ得

一 印紙類出納簿 大藏省ハ第一號樣式 稅務管理局ハ第二號樣式

二 印紙類發送簿 第三號樣式

印紙類出納簿ハ第四條ノ命令ニ依リ之ヲ登記シ印紙類發送簿ハ第五條ノ命令ニ依リ之ヲ登記スヘシ帳簿ニ登記以前現印紙ノ支出ヲ爲スコトヲ得

第十條 印紙類會計官吏印紙類ノ出納及發送命令ヲ受ケタルトキハ直ニ當該帳簿ニ登記スヘシ

第十一條 印紙類會計官吏印紙類ノ發送命令ヲ受ケ當該帳簿ニ登記ヲ了シタルトキハ現印紙ハ之ヲ運送請負者ニ引渡シ同時ニ受領應印紙類出納命令官ニ發送報告ヲ爲スヘシ

前項運送請負者ニ引渡シタル印紙類ハ其ノ種類、員數及荷造ノ箇數、量目ヲ記載シタル領收證書ヲ徵スヘシ

第十二條 發送ノ印紙類到達シタルトキハ印紙類會計官吏ハ運送請負者又ハ其ノ代理人立會ノ上特ニ印刷局ノ封包ニ注意シ異狀ナキモノハ封包ノ儘種類、員數ヲ調査シ受納命令書ニ照シ符合ヲ認メタル上之ヲ受領シ其ノ領收證書ヲ交付シ同時ニ發送應印紙類會計官吏ニ領收證書ヲ送付スヘシ

若其ノ種類、員數受納命令ニ符合セス又ハ損傷汚染アルトキハ其事由書ヲ徵シ直ニ印紙類出納命令官ニ差出シ更ニ其ノ命令ヲ得テ現印紙ヲ受領スヘシ

第十三條 印紙類出納命令官前條ノ事由書ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ調査

シ其ノ事實ヲ詳記シ發送應印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第十四條 發送ノ印紙相當ノ期日內ニ到達セサルトキハ受領應印紙類出納

命令官ハ發送應印紙類會計官吏ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十五條 稅務管理局ニ於テ賣捌人ハ賣下ノ印紙ハ其ノ代價納付濟ノ上領

收證書ト引換ニ之ヲ交付スヘシ但シ二十三年勅令第二百七十一號印紙類

賣下賣捌規則第七條ニ依リ代價ノ延納ヲ許可セラレタル者ハ此ノ限

ニアラス

第十六條 印紙類ヲ貯藏スル倉庫ノ鎖鑰ハ印紙類會計官吏之ヲ保管スヘシ

第十七條 印紙類會計官吏ハ時々其ノ保管ノ印紙類ヲ點檢シ常ニ左ノ事項

ニ注意スヘシ

一 印刷局封包ニ異狀ナキヤ否ヤ

二 損傷汚染ニ屬スルモノナキヤ否ヤ

三 護謨固著ニ係ルモノナキヤ否ヤ

四 其ノ他保管上必要ノ事項

第十八條 印紙類會計官吏保管ノ印紙類若損傷汚染ニ屬スルモノアルトキ

ハ該印紙ノ種類、員數ヲ調査シ其ノ事由ヲ記載シ印紙類出納命令官ノ命

令ヲ得テ損傷拂ニ立テ命令官立會ノ上稅務管理局ニ於テハ之ヲ燒却シ大

藏省ニ於テハ之ヲ煮潰スヘシ

前項ニ依リ燒却又ハ煮潰ニ立會タル命令官ハ之カ證明書ヲ作り印紙類會

計官吏ニ之ヲ交付スヘシ

第十九條 稅務管理局印紙類會計官吏保管ノ印紙類印刷局封包ノ儘護謨固

著ニ係ルモノアルトキハ印紙類會計官吏ハ印紙類出納命令官ノ命令ヲ得

テ第十一條ニ依リ大藏省印紙類會計官吏ニ之ヲ還付スヘシ

第二十條 前條還付ノ印紙到達シタルトキハ大藏省印紙類會計官吏ハ印紙

類出納命令官ノ認可ヲ得テ之ヲ印刷局ニ回付シ分離ノ手續ヲ爲サシムヘ

シ但シ分離ノ爲損傷ニ屬スルモノハ第十八條ニ依リ處分スヘシ

大藏省印紙類會計官吏保管ノ印紙類護謨固著ニ係ルモノアルトキ亦同シ

第二十一條 印紙類會計官吏保管ノ印紙類亡失シタルトキハ印紙類會計官

吏ハ遲滯ナク其ノ事由、年月日及該印紙ノ種類、員數ヲ詳細ニ記載シ印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

印紙類出納命令官前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ審査シ關係書類ヲ添ヘ直ニ大藏大臣ニ申報スヘシ

第二十二條 印紙類出納命令官ハ監督上必要アリト認ムルトキハ印紙類會計官吏保管ノ帳簿及印紙類ヲ檢查シ又ハ特ニ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ檢査セシムヘシ

第二十三條 印紙類會計官吏保管ノ印紙類其ノ年度内ニ支出ニ至ラサルモノハ總テ翌年度ノ元受ニ組入ルヘシ

還付買戻シ又ハ交換ニ由リテ受領シタル印紙類ハ總テ其ノ年度ノ元受ニ組入ルヘシ

第二十四條 印紙類會計官吏ハ毎月末日其ノ保管ニ係ル印紙類ノ現在高表ヲ調製シ翌月五日以内ニ印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第二十五條 稅務管理局印紙類出納命令官ハ翌年度所要ノ印紙類概算書ヲ

調製シ毎年二月十五日以内ニ其ノ廳ヲ發シ大藏省印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第二十六條 稅務管理局印紙類出納命令官ハ印紙類會計官吏ヲシテ每會計年度末ニ於ケル印紙類ノ殘高表ヲ調製セシメ翌年度四月五日以内ニ其ノ廳ヲ發シ大藏省印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第二十七條 印紙類會計官吏ハ物品會計規則第十五條ニ依リ毎年度間ニ執行シタル印紙類ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度六月三十日迄ニ印紙類出納命令官ニ差出スヘシ

前項ノ計算書ハ二十八年會計檢査院達第四號印紙類出納證明規程第一條ニ依リ大藏省印紙類會計官吏ハ第一號様式ニ基キ稅務管理局印紙類會計官吏ハ第二號様式ニ基キ之ヲ調製シ證憑書類ハ第三條及第四條ニ依リ之ヲ整理スヘシ

第二十八條 印紙類會計官吏交替シタルトキハ前任官吏ハ前條ニ準シ計算書ヲ調製シ三十日以内ニ印紙類出納命令官ニ差出スヘシ若前任官吏死亡

其ノ他ノ事故ニ因リ自身計算書ヲ調製スルコト能ハサル場合ニ於テハ印紙類出納命令官他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第三十九條 前二條ノ計算書下検査ハ二十八年會計検査院達第四號印紙類出納證明規程第六條及第七條ニ依リ大藏省ハ官房第四課長稅務管理局ハ局長之ヲ執行シ其ノ下検査書ヲ添ヘ第二十七條ノ計算書ハ翌年度八月三十一日以内ニ第二十八條ノ計算書ハ三十日以内ニ其ノ廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十條 遞信省所管一二等郵便電信局及二等郵便局長ヨリ印紙類ノ請求アリタルトキハ總テ此ノ規程ニ依リ取扱フヘシ

護謄固著ニ係ル印紙類ノ還付アリタルト亦同シ

附 則

第三十一條 此ノ規程ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第一號

何 年 度
印 紙 類 出 納 簿

大 藏 省

備 考

- 一 印紙ハ其ノ種類及價格ノ異ナル毎ニ口坐ヲ設ケ登記スヘシ
- 二 出納ノ印紙ハ成ルヘク其ノ命令番號ノ順次ニ登記スヘシ
- 三 帳簿ハ描改塗抹ヲ禁ス若誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ朱ニテ二線ヲ横畫シ更ニ其ノ上部ニ正書スヘシ員數ノ誤記ハ假令一部分ニ止マルモノト雖モ其ノ全部ニ朱ノ二線ヲ横畫シ前例ニ倣ヒ訂正スヘシ

印

命令番號		受				保管 轉換
受納	支出	前年度 越高	製造	還附	計	
1		10.000			10.000	
	1		10.000		20.000	3.000
	2					1.000
2	3					1.500
				800	20.800	
		10.000	10.000	800	20.800	5.500

紙

拂			翌年度 繰越	高 殘
損傷	亡失	計		
				10.000
		3.000		20.000
				17.000
		5.500		14.500
			15.300	15.300
		5.500	15.300	0

何年度 第二號
印紙類出納簿

稅務管理局

- 備考
- 一 印紙ハ其ノ種類及價格ノ異ナル毎ニ口坐ヲ設ケ登記スヘシ
 - 二 出納ノ印紙ハ成ルヘク其ノ命令番號ノ順次ニ登記スヘシ
 - 三 帳簿ハ改描塗抹ヲ禁ス若誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ朱ニテ二線ヲ横畫シ更ニ其ノ上部ニ正書スヘシ員數ノ誤記ハ假令一部分ニ止マルモノト雖モ其ノ全部ニ朱ノ二線ヲ横畫シ前例ニ倣ヒ訂正スヘシ

何

年 月 日	摘 要
明治三十二年四月	一 前年度ヨリ越高
	五 印刷局ヨリ受高
	十 何郵便電信局 渡
	十五 何稅務管理局 ク
	ク 何郵便電信局 何稅務
	三 護謄局ヨリ還附
三十二年三月三十一	翌年度へ繰越

印

命令番號		受					計	賣下
受納	支出	前年度 越高	保 管 換	買戻	交換			
		1.000				1.000		
1			5.000			6.000		
	1						2.000	
2					50	6.050		
	2							
	3							
	4							
3				500		6.550		
	5							
		1.000	5.000	500	50	6.550	2.000	

紙

拂					翌年度 繰越	残 高
交換	還附	損傷	亡失	計		
						1.000
						6.000
				2.000		4.000
50				2.050		4.000
		50		2.100		3.950
		20		2.120		3.930
						4.430
	3.000			5.120		1.430
					1.430	0
50	3.000	70		5.120	1.430	

前年度
印紙類發送簿

第三號

大藏省
[稅務管理局]

- 備考
- 一 印紙ハ其ノ種類及價格ノ異ナル毎ニ口坐ヲ設ケ登記スヘシ
 - 二 發送ノ印紙ハ成ルヘク其ノ命令番號ノ順次ニ登記スヘシ
 - 三 帳簿ハ改描塗抹ヲ禁ス若誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ朱ニテ二線ヲ横畫シ更ニ其ノ上部ニ正書スヘシ員數ノ誤記ハ假令一部分ニ止ルモノト雖トモ其ノ全部ニ朱ノ二線ヲ横畫シ前例ニ倣ヒ訂正スヘシ

何

年 月 日	摘 要
明治三十二年四月	前年度ヨリ越高
一	大藏省ヨリ受
十	元賣捌人何某へ賣下
二十	損傷ニ付交換ノ爲メ元賣
一	捌人何某ヨリ返納
ク	同上交換シノ爲メ返納
十	損傷捌付交換ノ爲メ返納
三十	保管中損傷汚染ノ分燒却
十	元賣捌人何某廢業ニ付買
二十	戻ノ分
三十二年三月三十一	翌年度へ繰越

		何	
年	月 日	摘	要
明治三十二年	四	一	前年度ヨリ越高
		十	何々税務管理局請求ノ分
		二十	何々郵便電信局ク
		一	何々々
三十三年	三十一		翌年度へ繰越

印 紙				
命令番 號		發 送	支 出	殘
發 送	支 出			
		100		100
1		100		200
2		200		400
	1		100	300
			300	0
		400	400	

○會計検査院達第四號 二十八年九月四日

印紙類出納證明規程

第一條 物品會計規則第十五條ニ據リ印紙類會計官吏ノ證明スヘキ印紙類出納計算書ハ大藏省主税局及北海道廳ニ於テハ別記第一號府縣廳及島廳北海道郡區役所ニ於テハ別記第二號領事館ニ於テハ別記第三號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 印紙類出納計算書ニハ印紙ノ種類ニ依リ類別シ價格ノ異ナル毎ニ之ヲ列記スヘシ

第三條 印紙類出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

- 一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書但監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 二 各官廳間ノ授受ニ對シテハ當該官吏ノ領收證書
- 三 賣下ニ對シテハ賣捌人ノ領收證書

四 亡失ニ對シテハ當該上官ノ認定アル種類員數及其亡失ニ係ル事實ヲ詳記シタル證明書其辨償ニ係ルモノハ尙其種類員數及辨償金額ノ仕譯書

五 損傷汚染交換渡又ハ廢棄賣棄ニ係ル交換渡ニ對シテハ當該上官ノ認定アル種類員數及其交換ヲ要スル事實ヲ詳記シタル證明書及受取人ノ領收證書

六 煮潰及燒却拂ニ對シテハ當該上官ノ認定アル煮潰燒却ヲ要スル事實ヲ詳記シタル證明書及監督官吏ノ認定アル立會官吏ノ調書

第四條 前條ノ證憑書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ

一 證憑書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ

第五條 左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 證憑書類中他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其事由
二 現在品ノ内地遞送中ノモノアルトキハ其數量及事由

第六條 下検査官吏ハ計算書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度八月三十一日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 計算書其他證憑書類ノ件名冊數
- 二 計算書ト印紙類出納簿トノ符合及其現在品ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
- 三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由

第八條 印紙類出納ノ證明ニ關スル審理書及之ニ對スル報答書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

附則

第九條 本規程ハ明治二十八年年度ヨリ施行ス
(別記)

(第一號)

明治何年度
印紙類出納計算書

- 一 凡例
計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
- 二 印紙類會計官吏交替ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
- 三 計算書ノ用紙ハ厚質礬沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴代ヲ明クヘシ
- 四 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ
- 五 證憑書類中検査結了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名冊數ヲ計算書ニ附記スヘシ

名 應

部				拂之				
製造	護謨固著 還付	何々	計	何廳	何府縣	何領事館	亡失	者潰高
枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚

部		現在之部				備考	
何々	計	完全ノ分	護謨固著	損傷汚染	計		
枚	枚	枚	枚	枚	枚		
						<p>○北海道廳ニ於テハ受ク部製造ヲ受入トシ 拂ノ部何廳何府縣何領事館ヲ何郡區役所 トシ者潰高ヲ燒却高トスヘシ</p>	

明治何年度印紙類出納計算書面ノ通相違無
之候也

印紙類會計官吏官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

品 目	受 之			
	越 高			
	完 分 ノ	護 固	損 汚	傷 染
	計			
	枚	枚	枚	枚
紙 印 券 證				
五 壹 貳 五 拾				
何 何				
何 何				
金 證 保 元 身				
現 公 土 保				
債 證 書 額 面				
地 臺 帳 登 記 價 格				
保 證 人 氏 名				
ク				
ク				
0				
0				
0				

(身元保證金ヲ要セサルモノア)
(ルトキハ其事由ヲ記載スヘシ)

部		現在之部					備考
護固	謨著付	計	完全ノ分	謨著固	損傷汚染	計	
枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	

明治何年度

印紙類出納計算書

(第二號)

凡例
 一 計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 二 印紙類會計官吏交替ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
 三 計算書ノ用紙ハ厚質礬沙引美濃紙ヲ左側ニ曲尺一寸ノ綴代ヲ明クヘシ
 四 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ
 五 證書類中検査了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名冊數ヲ計算書ニ附記スヘシ

廳 名

之 部					拂		
何省ヨ受 入	買戻	損傷 汚染 交換	何々	計	賣		
					百分 ノ六	百分 ノ七	計
枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	

之							
下 割引代價	亡失	損傷 汚染 交換	廢棄 烟草 損傷 係	賣包 裏汚 染交 換	及ノニ	損傷 汚染 却高	
						自己 見分	他ヨリ 受入 分
円 銭 厘	枚	枚	枚	枚	枚	枚	

明治何年度印紙類出納計算書面ノ通相違無
之候也

印紙類會計官吏官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

品 目	受			
	越	高	計	
	完全ノ分	護謨固著	損傷汚染	計
	枚	枚	枚	枚
紙 印 券 證				
五 厘				
壹 錢				
貳 錢				
五 錢				
拾 錢				
何 々				
何 錢				
何 錢				
身 元 保 證 金				
現 金				0
公 債 證 書 額 面				0
土 地 臺 帳 登 記 價 格				0
保 證 人 氏 名				
ク				

(身元保證金ヲ要セサルモノア)
(ルトキハ其事由ヲ記載スヘシ)

部		現在之部				備考
何々	計	完全ノ分	護謨固著	損傷汚染	計	
枚	枚	枚	枚	枚	枚	

明治何年度

印紙類出納計算書

(第二號)

- 凡例
- 一 計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 - 二 印紙類會計官吏交替ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ノ項ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
 - 三 計算書ノ用紙ハ厚質縹沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴代ヲ明クヘシ
 - 四 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横書シ主任官吏之ニ捺印スヘシ
 - 五 證憑書類中檢査結了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名冊數ヲ計算書ニ附記スヘシ
- 名 應

2

品目	受之			
	越		高	
	完全ノ	護固	損汚	計
	枚	枚	枚	枚
紙印用訟訴				
拾錢錢錢錢圓				
參五拾五壹				
金證保元身				
現債證書額面				000
土地臺帳登記價格				0
保證人氏名				ク
				ク

(身元保證金ヲ要セサルモノア)
(ルトキハ其事由ヲ記載スヘシ)

部	拂之						
	何々	計	下		亡失	燒却高	護固還付
			賣員數	代價			
大藏省ヨリ入	枚	枚	枚	圓 錢 厘	枚	枚	枚

明治何年度印紙類出納計算書面ノ通相違無
之候也

印紙類會計官吏氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

勅令第四百十號 三十一年七月十四日
證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ヲ貼用スヘキ場合
ニハ自今一樣ノ收入印紙ヲ用ウヘシ其ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム但シ從來
ノ證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ハ當分ノ内收入
印紙ニ代ヘ使用スルコトヲ得

○大藏省令第十二號 三十一年七月二十八日
明治三十一年勅令第四百十號ニ依ル收入印紙ノ形式左ノ通相定ム
(錐形略ス)

- | | | | |
|----|-----|----|-----|
| 一厘 | 萌黄色 | 一錢 | 淡青色 |
| 二厘 | 橙黄色 | 二錢 | 綠色 |
| 三厘 | 濃青色 | 五錢 | 紫色 |
| 五厘 | 赭色 | 十錢 | 紅色 |

五十錢	上模様 淡紅色	十圓	橙黃色
一圓	上模様 青色	五十圓	青色
五圓	上模様 青色	百圓	紫色

○接續印紙ノ分截ニ際シ誤テ切斷又ハ毀損セシメタルモノハ交換買戻等ハ許可セサルノ件

三十一年二月廿五日
東京稅務管理局問合

煙草營業者ニ於テ接續印紙ノ分截ニ際シ誤テ印紙面ノ一端ヲ切斷若クハ毀損セルモノ、如キハ素ヨリ使用者ノ不注意ヨリ出タル過失タルハ勿論ニ候得共其損傷印紙ニシテ切斷又ハ毀裂セル部分ノ存シアリテ之ヲ接合スルトキハ全ク未使用ト認ムルモノニ限り交換方取計ヒ不苦哉

大藏省官房第四課長回答 三十一年三月八日 坤第二四六三號ノ一
毀損印紙ハ交換買戻等不相成儀ト御承知有之度

○收入印紙ニ代用スル從來ノ印紙類使用方ノ件 三十一年七月廿一日坤第五三九〇號主稅局長通牒

本月勅令第四百十號ニ依リ收入印紙ニ代用スル從來ノ印紙類ハ種類ノ如何ニ拘ハラヌ彼此交互使用シ差支ナキ義ニ候條爲念此段通牒候

○勅令第五十號 三十三年三月十日

郵便切手ノ賣下ヲ爲ス郵便及電信局所並郵便切手賣下所ニ於テ收入印紙ノ賣下ヲ爲スコトヲ得其ノ賣下ニ關スル規程ハ遞信大臣之ヲ定ム

○勅令第四號 二十三年一月十八日

出納官吏身元保證金納付方

第一條 左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ

但兵備品ノ出納取扱武官ハ本條ノ限ニアラス (二十四年勅令第五十二號ヲ以テ但書追加)

第一 現金ノ領收ヲ常職トスル官吏

第二 常時現金前渡ヲ受クル官吏

第三 物品會計官吏

第二條 身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニ限リ明治二十三年四月以後明治二十八年三月マテ五ケ年間ヲ期シ其身元保證金額ヲ平分シ毎年四期又ハ毎月ニ之ヲ納付セシムヘシ

前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテニ一時ニ納付セシムヘシ

第三條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利足ノモノヲ以テシ其價格ハ明治二十三年三月中東京取引所平均ノ相場ニ依リ示後五ケ年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引

所ノ平均相場ニ依リ示後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條 會計規則第五百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ヲ公賣スルトキ其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條 (二十七年十一月勅令第二
百四號ヲ以テ本條削除)

○大藏省訓令第五十號 三十二年七月一日

警視廳 北海道廳 府縣 稅關

造幣局 稅務管理局 專賣局

臨時沖繩縣土地整理事務局

臨時稅關工部 出納官吏

當省所管出納官吏身元保證金取扱方自今左ノ通心得ヘシ

但明治二十六年當省訓令第四十三號當省所管出納官吏身元保證金取扱順
序ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第一條 出納官吏ノ所屬長官ハ左ノ標準ニ據リ出納官吏ノ身元保證金額ヲ
算出シ之ヲ當該出納官吏ニ達スヘシ

現金前渡ヲ受クル官吏

取扱額

身元保證金

五百圓以上六百圓未滿	全	上	五拾圓
六百圓以上貳千圓未滿	百圓迄	每	壹圓四拾錢ヲ加フ
貳千圓以上壹萬圓未滿	全	上	五拾錢ヲ加フ
壹萬圓以上拾萬圓未滿	全	上	貳拾錢ヲ加フ
拾萬圓以上	全	上	拾錢ヲ加フ

最高額ハ千圓ニ止ム

保證金額積算ノ上圓位以下端數ハ切上クヘシ以下之ニ倣フ
收入官吏

政府ニ屬スル歲入歲出外現金ヲ取扱フ出納官吏
取扱額

身元保證金

五百圓以上七百圓未滿	全	上	四拾圓
七百圓以上壹萬圓未滿	每	貳百圓迄	壹圓拾五錢ヲ加フ
壹萬圓以上拾萬圓未滿	全	上	參拾錢ヲ加フ
拾萬圓以上	全	上	拾五錢ヲ加フ

最高額ハ千圓ニ止ム

物品會計官吏

身元保證金

千圓以上千五百圓未滿	全	上	貳拾圓
千五百圓以上壹萬圓未滿	每	五百圓迄	貳圓ヲ加フ
壹萬圓以上拾萬圓未滿	全	上	五拾錢ヲ加フ
拾萬圓以上	全	上	貳拾五錢ヲ加フ

最高額ハ千圓ニ止ム

印紙類會計官吏

保管額	身元保証金
千圓以上貳千圓未満	貳拾五圓
貳千圓以上六千圓未満	六圓ヲ加フ
六千圓以上壹萬圓未満	五圓ヲ加ス
壹萬圓以上拾萬圓未満	壹圓五拾錢ヲ加フ
拾萬圓以上	七拾五錢ヲ加フ
	最高額ハ千圓ニ止ム

第二條 各廳長官ハ身元保証金額達濟ノ上ハ第一號甲書式ニ依リ直ニ報告スヘシ

身元保証金ヲ要セシ出納官吏ニシテ該金ヲ要セサルニ至リタルキ又ハ解職シタルキハ第一號乙書式ニ依テ報告スヘシ

第三條 出納官吏現金ヲ以テ身元保証金ヲ納付セントスルキハ現金ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ニ第二號書式ノ納付書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四條 出納官吏土地ヲ以テ現金ニ代用身元保証金ヲ納付セントスルキハ

第三號書式ノ登記請求書二通及第四號書式ノ抵當權設定ノ證一通ヲ差出スヘシ

第五條 出納官吏公債證書ヲ以テ現金ニ代用身元保証金ヲ納付セントスルトキハ記名利札付ノ公債證書ヲ金庫ヘ預ケ入レ其保管證書ニ第五號書式ノ納付證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第六條 現金ニ代用スル土地若クハ公債證書ハ其價額身元保証金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其儘納付スルヲ妨ケス

第七條 出納官吏保證人ヲ立テ身元保証金ノ一部若クハ全部ノ免除ヲ請ハントスルトキハ第六號書式ノ願書ニ相當ノ證明ヲ受ケタル保證人ノ資産調書ヲ添ヘ差出シ大藏大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 出納官吏前條ノ認可ヲ得タルトキハ其保證人ヲシテ第七號書式ノ損失金辨償引受證書ヲ調製セシメ之ヲ差出スヘシ

第九條 出納官吏身元保証金ノ拂戻ヲ請ハントスルトキハ第八號書式又保證人ヲ立テタル場合ニハ第九號書式ノ請求書ニ身元保証金納付濟證并ニ

認可狀寫ヲ添ハ差出スヘシ
主任收入官吏ニ併算シ責任解除ヲ得タル分任收入官吏ハ主任收入官吏認可狀寫ニ該官吏ノ取扱金額ヲ併算シ責任解除濟ニ相違ナキ旨其長官ノ證明ヲ得テ差出ス
第十條 數職ヲ兼スル出納官吏ノ身元保證金ハ各職毎ニ區別シ納付スヘシ
第十一條 出納官吏自前差出ス前各條以種類ニ總テ其所屬長官ヲ經由スヘシ
第一號書式甲 用紙美濃紙其備考
出納官吏身元保證金ノ件報告

出納官吏身元保證金ノ件報告

局	在職部名	所在地名	取扱金額又ハ保管價額	身元保證金	職名	官氏名	任命年月日	就職年月日

取扱金ノ科目(租税)(租税外)(海關稅)(葉烟草專賣收入)(雜收入)ノ類
但何年度分
保證金額更定ニ係ルモノハ其事由ヲ但書スヘシ
前職者(交替ノ場合ニ於テハ此項ヲ併記スヘシ但前職者后職者共身元保證金アルモノニ限ル)

職名	官氏名	解除並事務引繼年月日

右及報告候也
明治 年 月 日
各廳長官氏名印

大藏大臣宛
第一號書式乙 用紙美濃紙

備考
一 身元保證金ヲ要セシ出納官吏ニシテ該金ヲ要セサルニ

至リタルトキハ事由欄ニ何年度ヨリ身元保證金ヲ要セサル旨ヲ記入スヘシ

二 身元保證金ヲ要セシ出納官吏ヲ解職シ後任者ヨリ身元保證金ヲ要セサルトキハ事由欄ニ解職並ニ事務引繼年月ヲ掲記スヘシ

出納官吏身元保證金ノ件報告

在職部局名所在地名	取扱金額又ハ保管價格	身元保證金官氏名事	由

右及報告候也

明治 年 月 日

大藏大臣宛

各廳長官氏名印

第二號書式 用紙半紙

備考

- 一 書式中何々トアルハ(現金ノ收入)(前渡ヲ受ケタル現金)(政府ニ属スル歳入歳出外ノ現金)(物品)(印紙類)(葉煙草)ノ類ヲ記載スルモノトス以下書式皆同シ
- 二 連帶責任ノモノハ何ノ誰連帶何々ヲ取扱フ爲ト記載スルモノトス
- 三 身元保證金全納ノ上會計規則第百八條及第百九條ニ依リ身元保證金ノ追納又ハ増納補填スルトキハ(但追納ノ分)又ハ(但増納ノ分)(但補填ノ分)ノ但書ヲ加フ

身元保證金納付書 明治何年何月何日

何金庫第何號保管證書

一金何圓也
右何々ヲ取扱フ爲會計規則第百三條ニ依リ出納官吏身元保證金トシテ相納候也

在職部局名何出納官吏

明治 年 月 日

官 氏 名 實印

大藏大臣宛

第三號書式甲 用紙半紙

備考

- 一 同一管轄登記所ニアラサル土地ヲ合併シテ代用納付セ
ントスルトキハ各別ニ請求書ヲ調製シ同時ニ差出スモ
ノトス
- 二 身元保證金ノ一部ヲ土地ヲ以テ代用納付セントスルト
キハ本文身元保證金ノ下何圓ノ内金何圓ニ代用ト記載
スヘシ以下之ニ準ス

登記請求書

一 何地何坪
何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號
此土地臺帳登記價格金何圓也

一 何地何段
此府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號
此土地臺帳登記價格金何圓也

此土地臺帳登記價格合計金何圓也

右ハ何々取扱フ身元保證金何圓ニ代用納付ノ爲何登記所ニ於テ抵當權設定
ノ登記相受度候也

在職部局名何出納官吏

明治 年 月 日

大藏大臣宛

官 氏 名實印

第三號書式乙 用紙半紙 (第三者ノ土地ヲ身元保證金代用トシテ抵當權
設定ノ請求ヲオスルキノ例)

登記請求書

何某所有
何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號
此土地臺帳登記價格金何圓也

一 何地何坪
何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號
此土地臺帳登記價格金何圓也

一 何地何段
何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號
此土地臺帳登記價格金何圓也

此土地臺帳登記價格合計金何圓也

右ハ何某所有(肩書記名者所有)ノ土地ニ有之候處所有主ヲ承諾未得テ何々

次取扱フ身元保證金何圓ニ代用納付ノ爲何登記所ニ於テ抵當權設定ノ登記
相受度候也

明治年 月 日

在職部局名何出納官吏

官 氏

名實印

右之通相違無之候也

何府縣何市郡何町村何大字何番地

所有主氏名實印

何府縣何市郡何町村何大字何番地

所有主氏名實印

大藏大臣宛

第四號書式甲 用紙美濃紙

抵當權設定之證

印紙

一何地何坪

何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號
此土地臺帳登記價格金何圓也

一何地何段

何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號
此土地臺帳登記價格金何圓也

此土地臺帳登記價格合計金何圓也
右拙者所有ノ土地ニ有之候處何々ヲ取扱フ爲會計規則第三百三條但書ニ依リ
出納官吏身元保證金何圓ノ代用トシテ抵當權設定候條會計規則第一百五條ニ
依リ公賣ニ付セラルルモ拙者ニ於テ聊故障無之候也
在職部局名何出納官吏

明治 年 月 日

官 氏

名實印

大藏大臣宛

第四號書式乙 用紙美濃紙

印紙

抵當權設定之證 (第三者ノ土地ヲ身元保證金代用トシテ抵當權ノ設定ヲ爲ストキノ例)

何某所有

何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號

一何地何坪

此土地臺帳登記價格金何圓也

何某所有

一何地何段 何府縣何市郡何町村何大字何字何番地何號

此土地臺帳登記價格合計金何圓也

右ハ何某所有(肩書記名者所有)ノ土地ニ有之候處何々ヲ取扱フ爲會計規則
第百三條但書ニ依リ出納官吏身元保證金何圓ノ代用トシテ所有主ノ承諾ヲ
得テ抵當權設定候條會計規則第百五條ニ依リ公賣ニ付セラルルモ所有主及
拙者ニ於テ聊故障無之候也

在職部局名何出納官吏

官 氏

名實印

明治年 月 日

右之通相違無之候也

何府縣何市郡何町村何大字何番地

所有主氏名實印

何府縣何市郡何町村何大字何番地

所有主氏名實印

大藏大臣宛

第五號書式甲 用紙美濃紙

備考

一 書式中價格ハ明治二十三年勅令第四號第三條ニ依リ定

ムル所ノ金額ヲ記入スヘシ

乙書式亦同シ

公債證書納付之証

印紙

記番號

此額面金何圓也

一何種公債證書 此價格金何圓也

此價格合計金何圓也

右ハ拙者記名ノ公債證書ニ有之候處何々ヲ取扱フ爲會計規則第百三條但書
ニ依リ出納官吏身元保證金何圓ノ代用トシテ納付候條會計規則第百五條ニ
依リ公賣ニ付セラルルモ拙者ニ於テ聊故障無之候也

在職部局名何出納官吏

明治 年 月 日

官 氏 名實印

大藏大臣宛

第五號書式乙 用紙美濃紙

備考

一 所有主二名以上ナルトキハ肩書ニ(何ノ某所有)ト記載スヘシ

印紙 公債證書納付之證

一何種公債證書 記番號 此額面金何圓也

此價格金何圓也

一何種公債證書 記番號 此額面金何圓也

此價格金何圓也

此價格合計金何圓也

右ハ何某記名(肩書記名)ノ公債證書ニ有之候處何々ヲ取扱フ爲會計規則第

百三條但書ニ依リ出納官吏身元保證金何圓ノ代用下シテ所有主ノ承諾ヲ得テ納付候條會計規則第一百五條ニ依リ公賣ニ付セラレ、モ所有主及拙者ニ於テ聊故障無之候也

在職部局名何出納官吏

官 氏 名實印

明治 年 月 日

右ノ通相違無之候也

何府縣何市郡何町村何大字何番地

所有主氏 名實印

何府縣何市郡何町村何大字何番地

所有主氏 名實印

大藏大臣宛

第六號書式 用紙美濃紙

備考

一 書式中()ハ身元保證金一部ノ免除ヲ願フトキノ例

身元保證金免除願

(身元保證金何圓ノ内)

一金何圓也

右ハ何々ヲ取扱エ爲會計規則第百三條ニ依リ出納官吏身元保證金トシテ可
相納ノ處相當ノ資産ヲ有スル有力者左ノ何人ヲ以テ保證爲致候條前記保證
金御免除被下度候也

在職部局名何出納官吏

官氏名實印

明治 年 月 日

大藏大臣宛

右之通相違無之候也

何府縣何市郡何町村何大字何番地

職業氏名實印

何府縣何市郡何町村何大字何番地

職業氏名實印

第七號書式 用紙美濃紙

備考

(一)ハ保證金ノ一部ヲ引受ケタルトキノ例

印紙

損失金辨償引受證書

(身元保證金何圓ノ内)

一金何圓也

右ハ何出納官吏在職部局名官氏名ノ身元保證金ニ有之候處本人取扱金額
(又ハ保管價額)ニ損失ヲ來シ辨償ヲ命セラレ御指定ノ期限内ニ辨償ヲ爲サ
ルトキハ會計規則ノ條項ニ依リ拙者共連帶ニテ引受辨償可致候也

何府縣何市郡何町村何大字何番地

職業氏名實印

何府縣何市郡何町村何大字何番地

職業氏名實印

明治 年 月 日

大藏大臣宛

第八號書式 用紙半紙

身元保證金拂戻請求書

拙者(又ハ何ノ誰儀)年月日ヨリ取扱在職部局名出納官吏奉職ノ處年月日退職(又ハ死亡)別紙寫ノ通會計検査院ノ検査判決ニ依リ責任解除ニ相成候ニ付テハ豫テ納付ノ身元保證金御拂戻有之度依テ身元保證金納付濟證何葉相添此段請求候也

在職部局名何出納官吏

官 氏 名實印

明治 年 月 日

大藏大臣宛

第九號書式 用紙半紙

損失金辨償引受證書下戻請求書

拙者儀(又ハ何之誰)年月日ヨリ何々ヲ取扱フ在職部局名出納官吏奉職ノ處年月日退職(又ハ死亡)別紙寫ノ通會計検査院ノ検査判決ニ依リ責任解除相

成候ニ付テハ豫テ左ノ何人ヨリ差出置候損失金辨償引受證書御下戻有之度此段請求候也

在職部局名何出納官吏

官 氏 名實印

明治 年 月 日

何府縣何市郡何町村何大字何番地

職 業 氏 名實印

何府縣何市郡何町村何大字何番地

職 業 氏 名實印

大藏大臣宛

○大藏省訓令第十一號 廿六年三月二十三日
出納官吏身元保證金ヲ納付スルキ義務アルハ明治二十二年法律第四號會計法第二十八條及明治二十三年勅令第四號第一條ニ依リ其取扱金額一ヶ年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ同號第二條

三依リ就職ノ時即納スヘク又追納増納ノ場合ニ於テハ明治二十三年勅令第六十號會計規則第八條第九條ニ依リ一定ノ期限内ニ納付スヘキ筋ナルニ付萬一脱漏アルニ於テハ出納官吏ノ職務ヲ執ルヲ得サル儀ニシテ知ラス知ラス違法ノ所爲ニ陷キルコトモ可有之就テハ各出納官吏現金取扱額及物品保管價格ノ概定高ハ本屬大臣ニ於テ指定ノ上身元保證金納付義務ノ有無通達アルヘキ筈ナレトモ尙ホ各自ニ於テハ其算出方等左ノ通相心得不都合無之様注意致スヘシ

- 一 明治二十三年勅令第四號第一條ノ取扱金額ハ現金出納簿ノ受入高ニ依リ算出シ又物品ノ價格ハ物品出納簿受入ノ高ヨリ拂出ノ高ヲ差引タル一ケ年間毎月末ノ平均殘高ニ依リ算出スヘシ
- 一 明治二十三年勅令第四號第一條ノ現金ノ領收ヲ常職トスル官吏トハ或ル特定事件ノ爲メニ一時限リ現金領收ヲ命セラレタル者ヲ除キ總テ現金ノ領收ヲ爲スヘキ資格アル者ハ平常現金ノ領收アルト否トニ拘ハラズ總テ包含シ又常時現金前渡ヲ受クル官吏トハ常ニ現金前渡ヲ受ケ居

ル者ヲ云ヒ臨時命ヲ受クル者ヲ包含セス

- 一 出納官吏數職ヲ兼務シ各職毎ニ區分シテ身元保證金ヲ納ムルハ出納簿ノ補助簿ニ依リ算出シ若シ補助簿ノ設ケナキトキハ出納簿ニ依リ種類ヲ區分シテ算出スヘシ
- 一 明治二十三年勅令第五十三號官立學校及圖書館會計規則第二十條第三項ニ依リ現金前渡ヲ受クル官吏ハ其取扱金額一ケ年五百圓未滿ト雖モ身元保證金納付ノ義務アリ

○達第二九五號 廿九年二月七日

身元保證金拂戻請求書ニ添付スヘキ認可狀ノ件

警視廳 北海道廳
府 縣 造幣局
印刷局 稅 關
廣島鑛山 出納官吏

當省所管分任收入官吏身元保證金拂戻請求ノ際添付スル會計検査院認可狀
寫之儀該官吏取扱金主任收入官吏計算ニ併算シ責任解除濟ノモノハ其認可
狀寫ニ調査相違ナキ旨所屬長官ノ證明ヲ得差出スヘシ

○大藏省訓令第三十號 二十九年十月三十一日

稅務管理局出納官吏

國稅外諸收入金ハ明治二十六年當省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程ニ
出納官吏身元保證金取扱方ハ同年當省訓令第四十三號大藏省所管出納官吏
身元保證金取扱順序ニ依リ本年勅令第三百三十七號實施之日ヨリ取扱フヘ
シ

○身元保證金免除願出ノ節保證人資産調書添付方

二十七年二月十九日坤第六八八號
官房第四課長通牒

當省所管出納官吏身元保證金ノ免除願出ノ節ハ明治二十六年當省訓令第四

十三號第十一條ニ依リ身元保證金免除願書ニ保證人資産調書ヲ添へ認可ヲ
請フヘキ儀ニ有之候就テハ該資産土地ナレハ他ニ質入書入ナキ旨又公債證
書等ノ所得金ナレハ該公債證書ノ他ニ抵當等無之旨ヲ證シ差出候様御取計
有之度此段申進候也

○出納官吏現金取扱額算出方及身元保證金轉用方

廿七年二月
新潟縣へ回答

本月八日新潟縣知事ヨリ大藏大臣官房第四課長昨二十六年貴省訓令第四十
三號ヲ以テ出納官吏身元保證金取扱順序制定相成リ同金ニ關スル從來ノ訓
令ハ總テ廢止セラレタル處出納官吏現金取扱額物品保管額ノ算出方ハ該訓
令ニ於テ別ニ明示之ガシ右ハ尙ホ從前ノ通全年貴省訓令第十一號ノ趣旨ニ
依リ算出シ然ルヘキヤ又身元保證金ヲ要スル收入官吏ニシテ他ノ身元保證
金ヲ要スル出納官吏ヨリ轉任シタルトキ既納ノ身元保證金轉用方ノ儀ハ二
十四年^{十一月}坤第二七三六號主稅局長通知ノ次第モ之アルニ附テハ將來ト雖
モ尙ホ右通牒ノ趣旨ニ依リ轉用シ然ルヘキヤト照會セシニ昨二十七日同課

長ヨリ見解ノ通り但シ昨二十六年當省訓令第十一號ハ廢止セラレタルモノ
ニアラス又身元保證金ヲ要スル出納官吏ニシテ他ノ身元保證金ヲ要スル出
納官吏ニ轉シタルトキ前職ノ事務責任解除ヲ得サル以前ニ於テハ之ヲ他ニ
轉用スルコトヲ得スト回答セリ

第九章 身分 雜

○勅令第六十一號 三十二年三月二十七日

文官任用令

- 第一條 勅任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス但シ親任
式ヲ以テ叙任スル官及別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 一 奏任文官特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及教官、技術官ヲ除クノ職ニ在ル者及在リタル者ニシテ高
等官三等ノ文官ノ職ニ在ル者及在リタル者
 - 二 滿一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在
職シタル者并ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク
 - 三 勅任文官特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及教官、技術官ヲ除クノ職ニ在リタル者ニシテ本令第二條
第一項ノ資格ヲ有スル者
 - 四 滿二年以上勅任檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者
- 滿二年以上勅任判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ勅任文官ニ任

用スルコトヲ得

滿二年以上帝國大學及文部省直轄諸學校ノ勅任文官ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ文部省部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

陸海軍將官ハ別ニ任用ノ規程アルモノノ外各其ノ部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第二條 奏任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

二 滿二年以上高等文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者并ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

三 滿二年以上檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者

滿二年以上判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條 判任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有ス

ル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 文官普通試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

二 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

三 官立公立中學校又ハ文部大臣於テ之ト同等以上ト認めタル官立公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

四 高等商業學校舊附屬主計學校及舊主計專修科ノ卒業證書ヲ有スル者并ニ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學、政治學又ハ經濟學ヲ教授スル私立學校ニ於テ明治二十六年十一月十日以前ニ卒業證書ヲ得タル者

五 滿二年以上文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者并ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

第四條 教官及技術官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外高等官ニ在リテハ文官高等試験委員、判任官ニ在リテハ文官普通試験委員若シテ銜ヲ經テ之ヲ任用ス

判任官ニ在リテハ文官普通試験委員若シテ銜ヲ經テ之ヲ任用ス

第五條 特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ高等官ニ在リテハ文官高等試験委員、判任官ニ在リテハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ教官、技術官ノ中若ハ試験委員ニ於テ教官、技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第六條 滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤績シタル者ハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第七條 本令第一條第二項第三項第四項、第二條第二項、第四條、第五條及第六條其ノ他特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者ハ文官試験ヲ經ルニ非サレハ其ノ各條項又ハ其ノ規程ニ指定シタル以外ノ文官ニ任用スルコトヲ得ス

第八條 文官任用及銓衡ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第九條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

○勅令第三百二十二號 三十一年十月二十二日

司稅官特別任用令

滿五年以上稅務ニ從事シ判任官五級俸以上ノ俸務ヲ受ケ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ稅務管理局ノ司稅官ニ任用スルコトヲ得

附則

明治二十九年勅令第三百四十三號ニ依リ任用シタル稅務管理局ノ司稅官補ニシテ明治三十一年勅令第二百七十二號施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用キス同官等ノ司稅官ニ任セラレタルモノトス
本令ハ明治三十一年勅令第二百七十二號施行ノ日ヨリ施行ス

○勅令第三百四十五號 廿九年十月二十日

第一條 明治二十六年勅令第八十三號文官任用令第五條同年勅令第八十五號同年勅令第九十六號第一條ニ依リ任用シタル收稅屬ニシテ廢官